

**第2期**  
**八雲町子ども・子育て支援事業計画**  
**ニーズ調査報告書**

《概要版》

**平成31年2月**  
**八雲町**

## 目 次

I 調査の概要.....	3
II 就学前児童の集計結果.....	4
1 お子さんご家族の状況について.....	4
2 お子さんの育ちをめぐる環境について.....	5
3 平日の定期的な教育・保育施設の利用について.....	7
4 土曜・休日・長期休暇中の教育・保育施設の利用について.....	14
5 地域の子育て支援事業等の利用について.....	16
6 子どもが病気やケガのときの対応について.....	18
7 一時預かり等の不定期な利用について.....	20
8 小学校入学後の放課後の過ごし方について.....	22
9 保護者の就労状況について.....	24
10 職場の両立支援制度について.....	27
11 子育て全般について.....	29
III 小学生の集計結果.....	32
1 お子さんご家族の状況について.....	32
2 お子さんの育ちをめぐる環境について.....	33
3 現在の放課後の過ごし方について.....	35
4 今後の放課後の過ごし方について.....	39
5 保護者の就労状況について.....	41
6 子育て全般について.....	44

# I 調査の概要

## 1. 調査の概要

本調査は、子育て家庭の現状と今後の意向を把握するとともに、「第2期八雲町子ども・子育て支援事業計画」を策定するために必要な基礎資料の収集を目的に実施しました。

調査対象	平成30年11月1日現在 八雲町に在住する就学前児童及び小学生の保護者全員 ・就学前児童の保護者：720人（通園児：492人、未通園児：228人） ・小学生の保護者：713人
調査期間	平成30年11月
調査方法	・保育園、幼稚園、小学校による配布・回収 ・保育園、幼稚園を利用していない就学前児童の保護者は郵送による配布・回収

## 2. 調査票の回収結果

	配布数 (票)	回収数 (票)	白票 (票)	有効回収数 (票)	有効回収率 (%)
就学前児童の 保護者向け	720	574	0	574	79.7
小学生の 保護者向け	713	598	1	597	83.7
合計	1,433	1,172	1	1,171	81.7

## 3. 集計結果の表し方

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図の数字に関しては、すべて小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがあります。
- クロス集計（男女別の集計など）の表については、分析軸の項目の後に（n）として、各項目の回答者数を表記しています。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合は表示していません。よって、「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合があります。

## II 就学前児童の集計結果

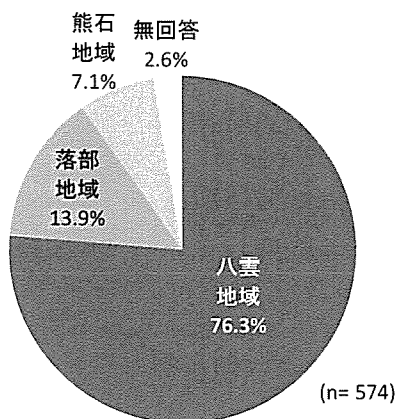
### 1 お子さんご家族の状況について

#### (1) 回答者の属性

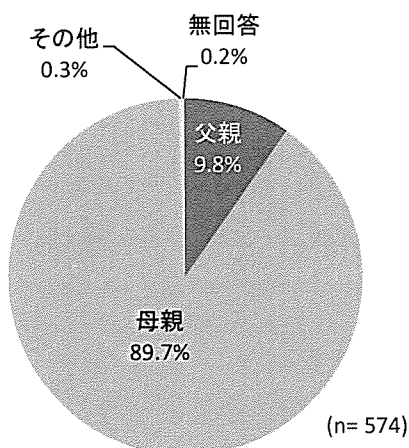
居住地域は「八雲地域」が76.3%を占め、「落部地域」は13.9%、「熊石地域」は7.1%となっています。

調査票記入者は母親が約9割を占めています。また、配偶関係をみると、「配偶者がいる」は92.0%、「配偶者がいない」が7.8%となっています。

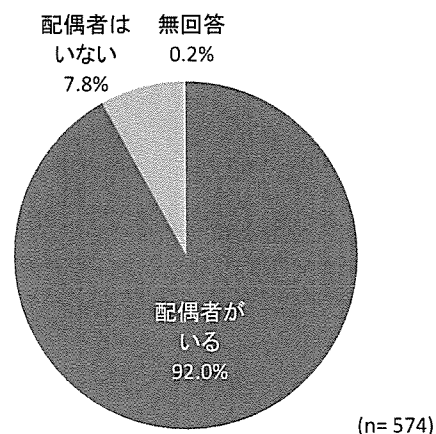
《居住地域》



《調査票記入者》



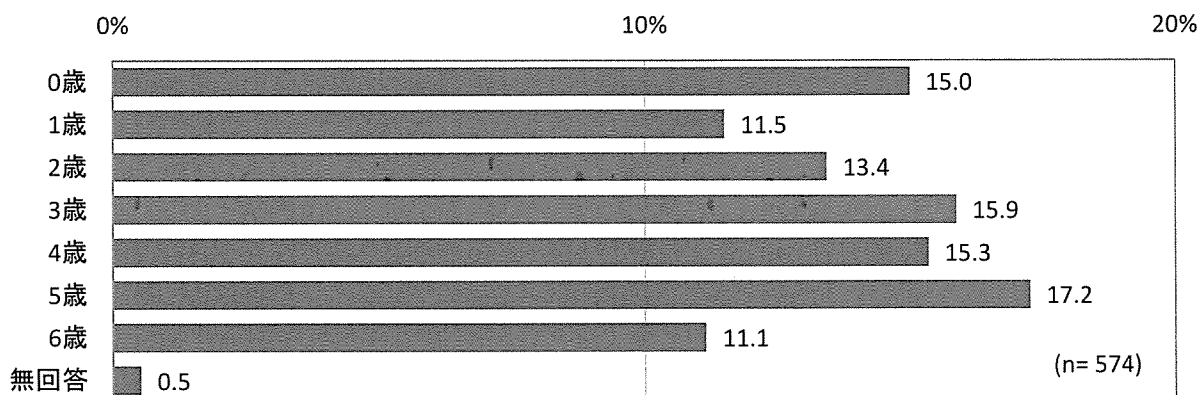
《配偶関係》



#### (2) 子どもの年齢

子どもの年齢は、「5歳」が17.2%で最も多く、次いで「3歳」(15.9%)、「4歳」(15.3%)と続いています。

《子どもの年齢》



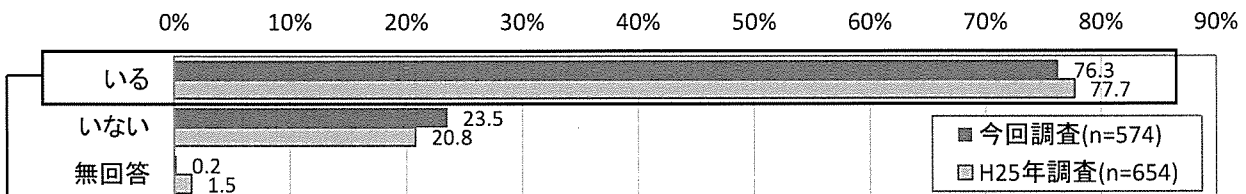
## 2 お子さんの育ちをめぐる環境について

### (1) 子どもを預かってもらえる親せきや友人・知人について

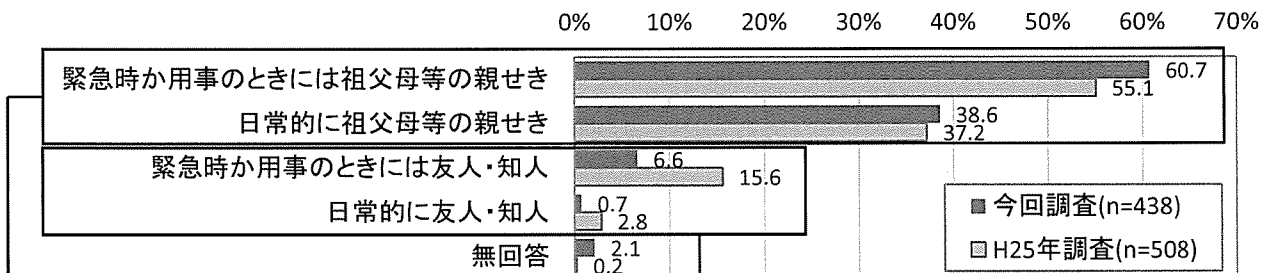
子どもを預かってもらえる親せきや友人・知人は、「いる」が76.3%で、「いない」は23.5%いる状況です。預かってもらえる先は、「緊急時か用事のときには祖父母等の親せき」と回答した人が60.7%と最も多くなっています。

預けている先の状況は「安心して子どもをみてもらえる」が、親せき及び友人・知人ともに半数を超えています。友人・知人に預けている人は「友人・知人に負担をかけていることが心苦しい」も半数近くいる状況です。

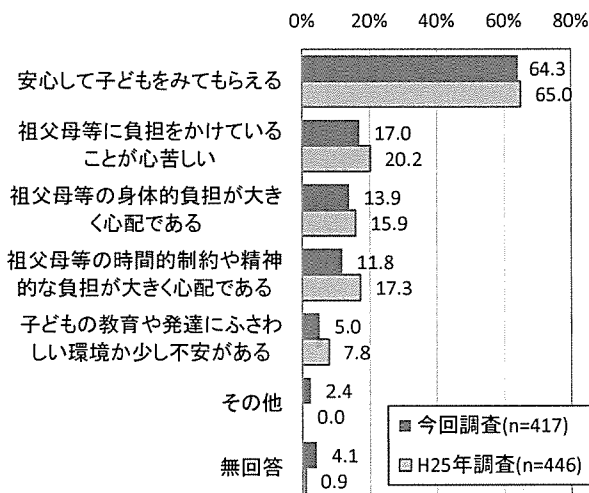
《子どもを預かってもらえる親せきや友人・知人の有無》



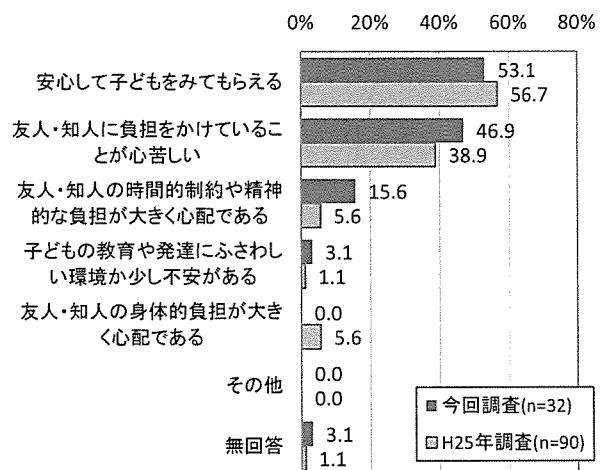
《子どもを預かってもらう相手（複数回答）》



《親せきの状況（複数回答）》



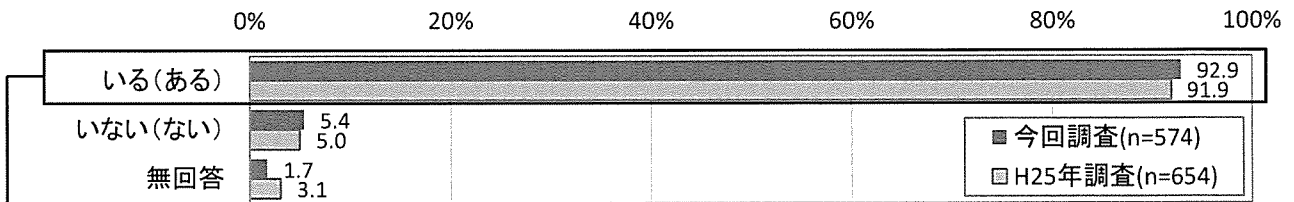
《友人・知人の状況（複数回答）》



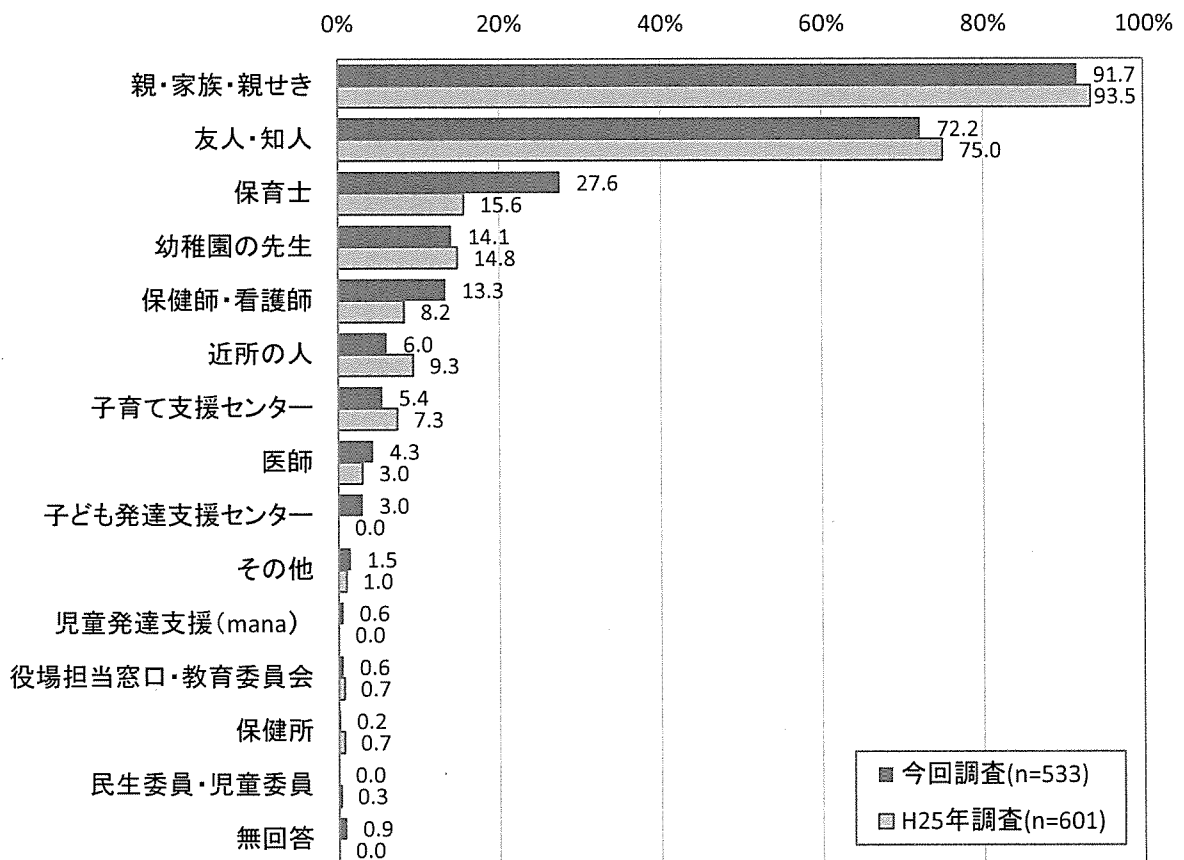
## (2) 子育てに関する相談先

子育てに関する相談先が「いる(ある)」は92.9%を占めており、相談先の中では、「親・家族・親せき」(91.7%)、「友人・知人」(72.2%)が多く、次いで「保育士」(27.6%)、「幼稚園の先生」(14.1%)が続いています。

《相談先の有無》



《相談先の種類(複数回答)》



※「児童発達支援センター」「児童発達支援(mana)」は、H25年調査では選択肢になかったため0.0%となっています

### 3 平日の定期的な教育・保育施設の利用について

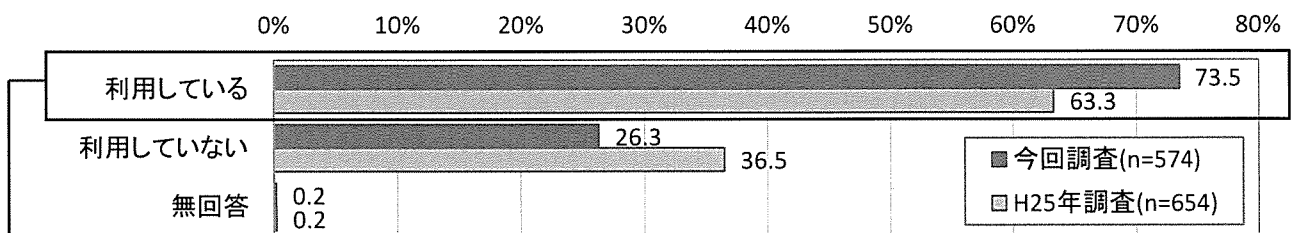
#### (1) 現在の教育・保育施設の利用状況

##### ①全体

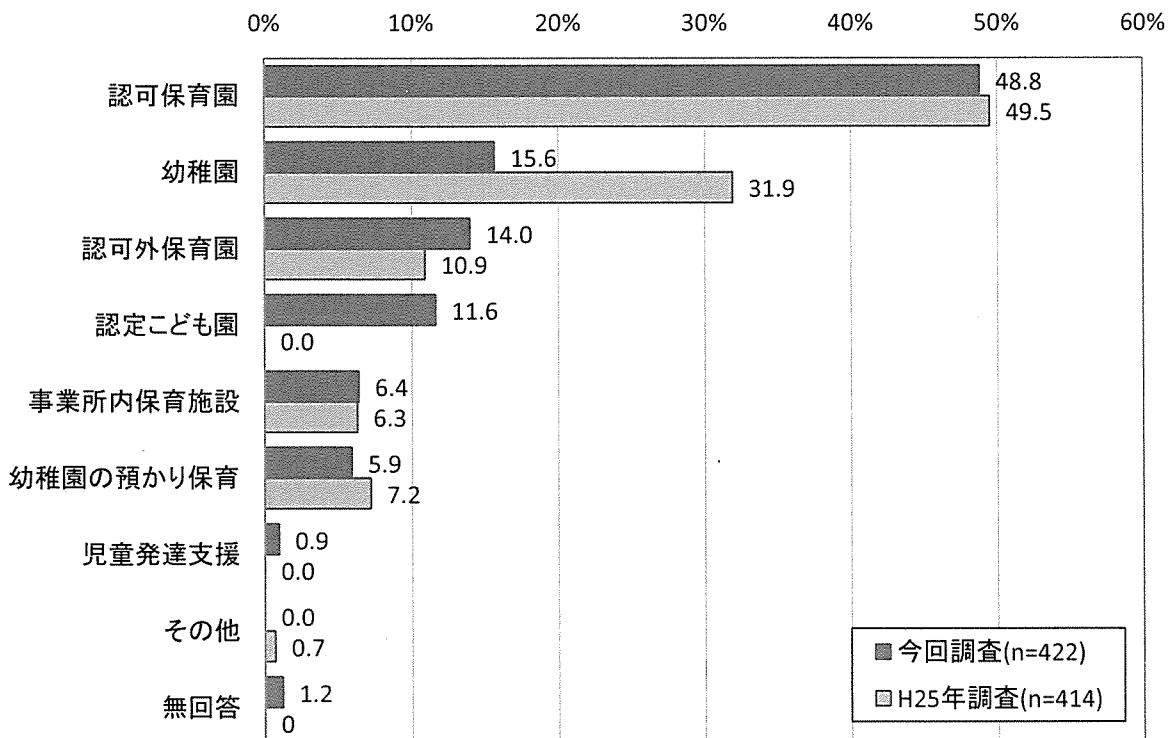
現在、教育・保育施設を「利用している」人は73.5%で、H25年調査と比べると10.2ポイント増加しています。

利用している教育・保育施設の中では、「認可保育所」が約半数を占め、続いて「幼稚園」(15.6%)、「認可外保育園」(14.0%)と続いています。また、H25年調査との比較では、「幼稚園」が16.3ポイント少なくなっています。

《平日の定期的な教育・保育施設の利用有無》



《利用している教育・保育施設の種類（複数回答）》



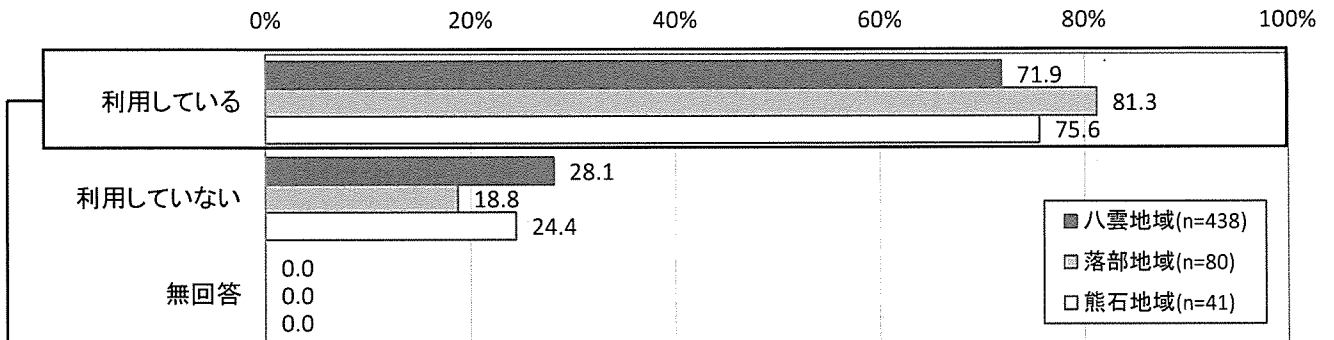
## ②地域別

教育・保育施設の利用有無を地域別でみると、いずれの地域も「利用している」が8割前後となっており、地域間で教育・保育施設の利用状況に大きな差異はありません。

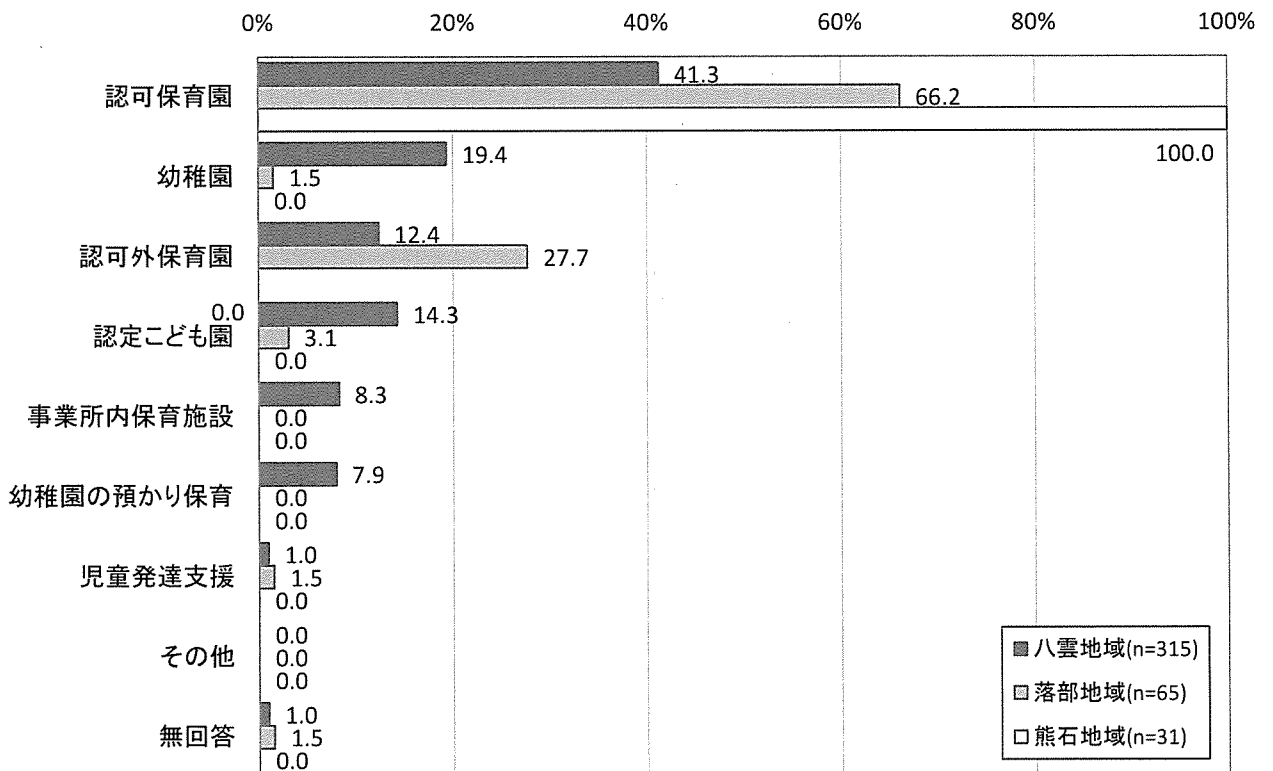
いずれの地域も、利用している教育・保育施設は「認可保育園」が最も多く、特に熊石地域はその割合が100%となっています。

「認可保育園」以外では八雲地域は「幼稚園」（19.4%）、落部地域は「認可外保育園」（27.7%）となっています。

《平日の定期的な教育・保育施設の利用有無（地域別）》



《利用している教育・保育施設の種類（複数回答/地域別）》



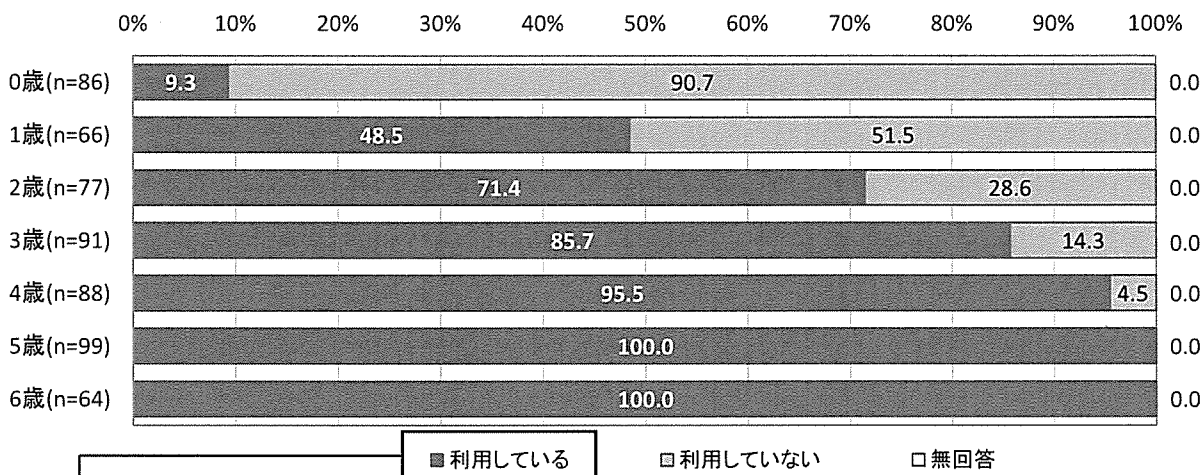


### ③子ども年齢別

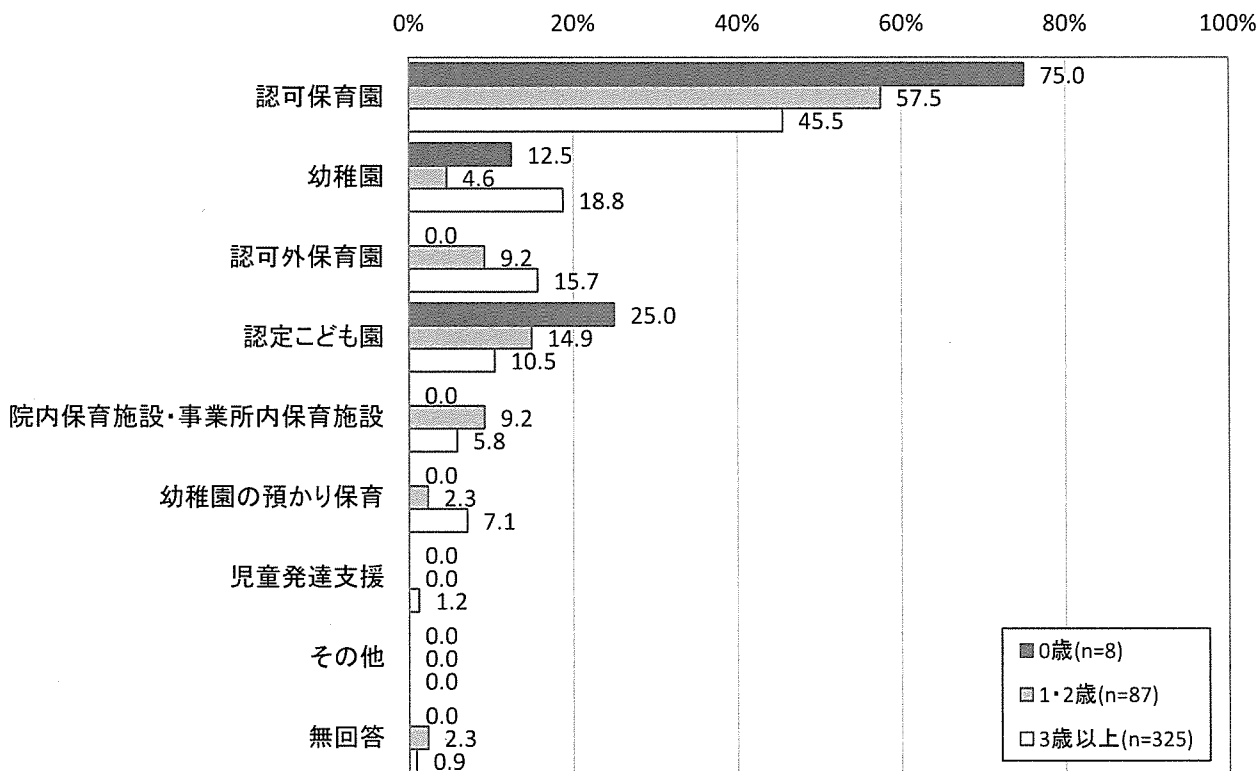
教育・保育施設を「利用している」人を子どもの年齢別で見ると、0歳は9.3%と利用割合が低くなっていますが、1歳では48.5%と約半数まで利用割合が増加しています。2歳以降も年齢が高くなるにつれて利用割合は高くなり、5歳以上では100%となっています。

いずれの年齢階級においても「認可保育所」の利用が最も多くなっていますが、「認可保育所」以外では0歳及び1・2歳は「認定子ども園」、3歳以上は「幼稚園」の利用が多くなっています。

《平日の定期的な教育・保育施設の利用有無（子ども年齢別）》



《利用している教育・保育施設の種類（子ども年齢別/複数回答）》

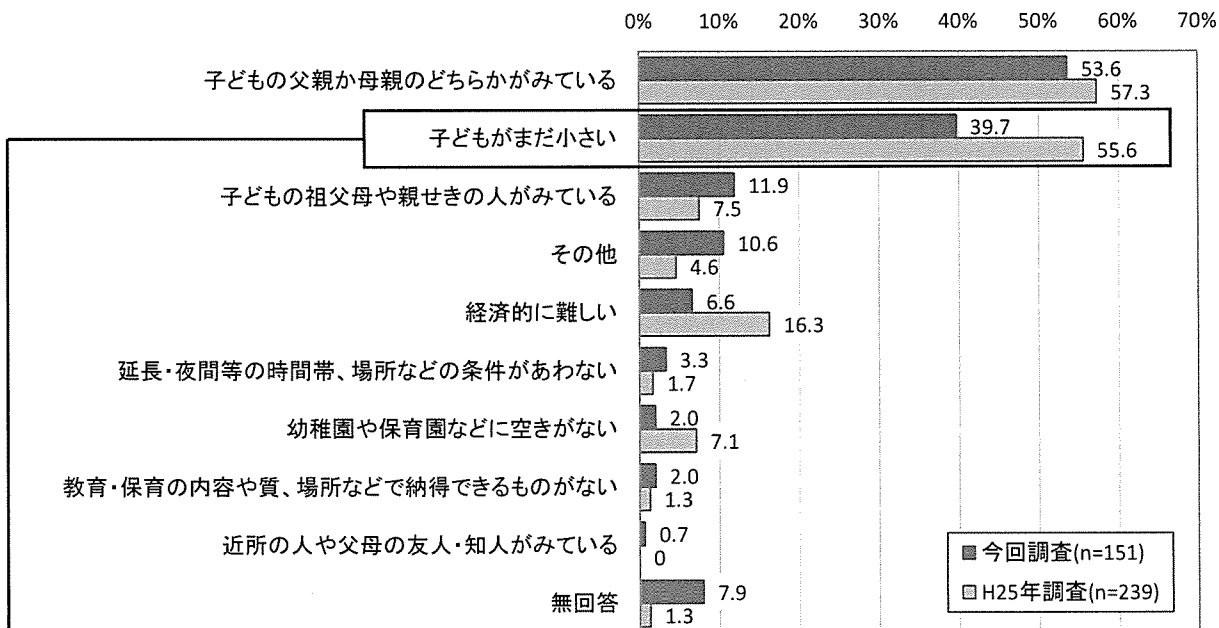


## (2) 教育・保育施設を利用していない理由

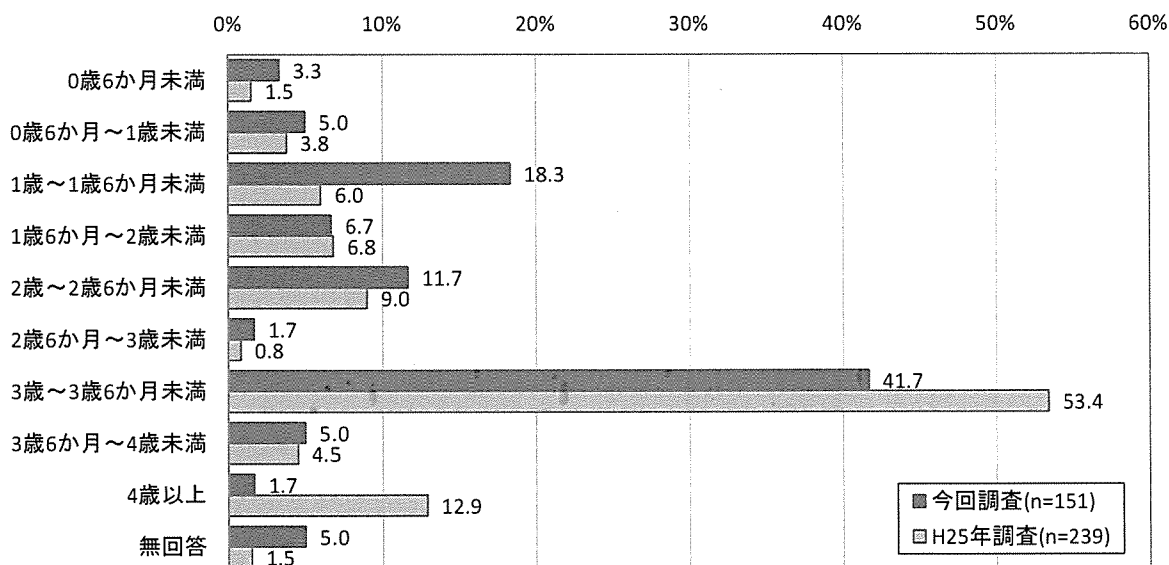
現在、教育・保育施設を利用していない理由は、「子どもの父親か母親のどちらかがみている」が53.6%で最も多く、次いで「子どもがまだ小さい」(39.7%)が続いています。H25年調査でも上位回答の傾向は変わりませんが、「子どもがまだ小さい」はH25年調査と比べて15.9ポイント少なくなっています。

教育・保育施設を利用したい子どもの年齢は、H25年調査と同様に「3歳～3歳6か月未満」が最も多くなっていますが、今回調査は「1歳～1歳6か月」も多くなっており、教育・保育施設を利用し始める年齢は低くなってきていると考えられます。

《定期的に教育・保育施設を利用していない理由（複数回答）》



《教育保育施設を利用したい子どもの年齢》

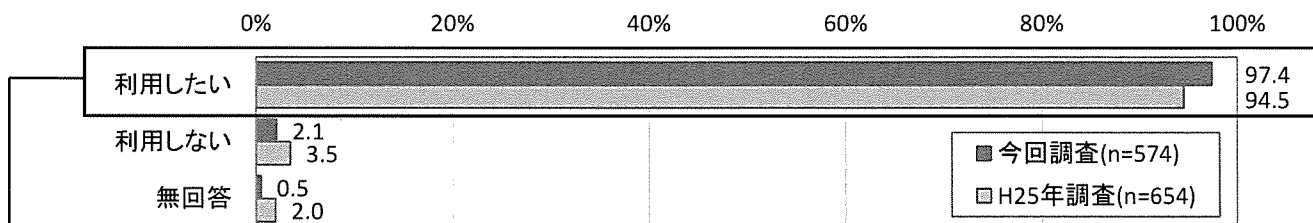


### (3) 教育・保育施設の今後の利用意向

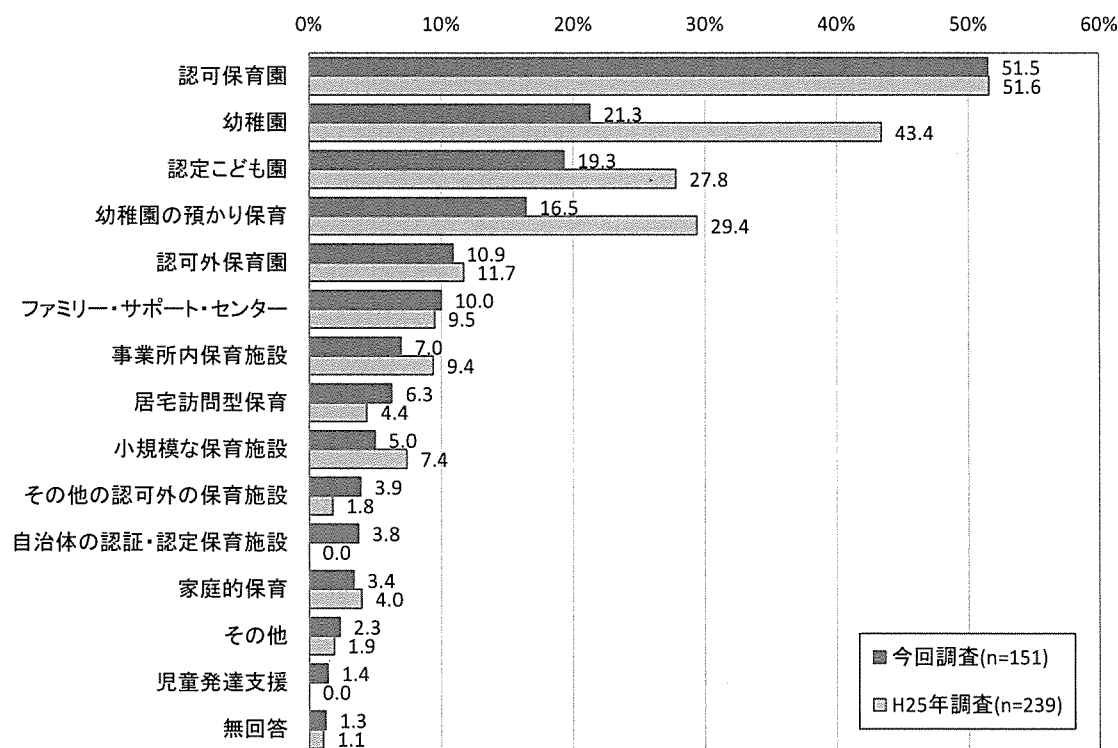
#### ①全体

今後の教育・保育施設の利用意向は、「利用したい」が97.4%と極めて多く、ほぼすべての人に教育・保育施設の利用意向がある状況です。利用したい教育・保育施設は、「認可保育園」(51.5%)、「幼稚園」(21.3%)、「認定こども園」(19.3%)が上位となっていますが、H25年調査との比較では「幼稚園」「認定こども園」「幼稚園の預かり保育」が少なくなっています。

《教育・保育施設の今後の利用意向》



《利用したい教育・保育施設の種類（複数回答）》

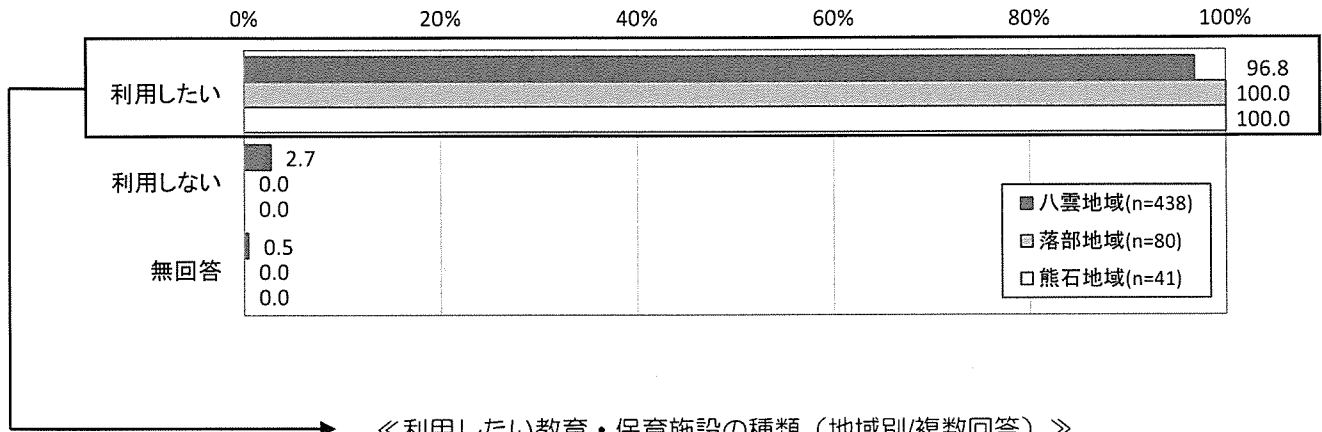


## ②地域別

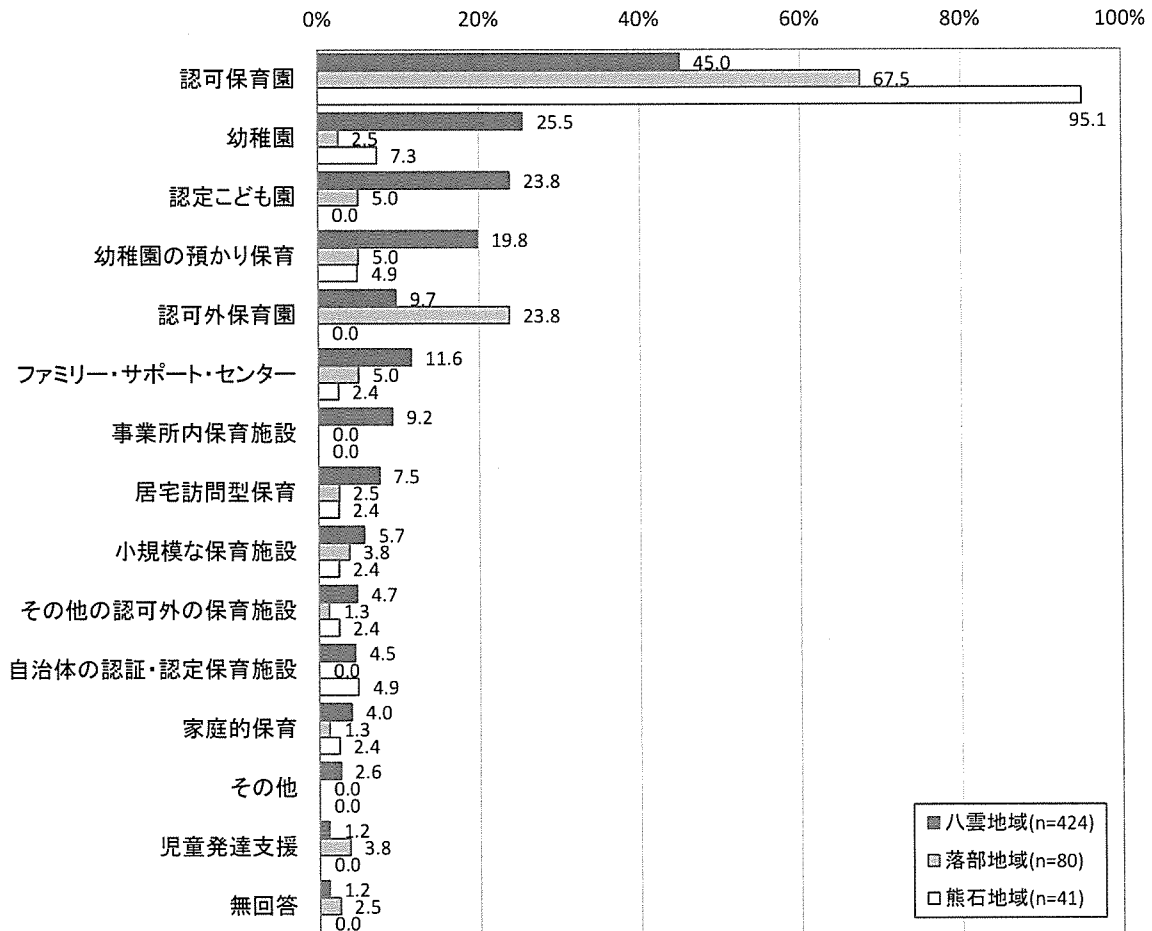
今後の教育・保育施設の利用意向を地域別でみると、いずれの地域もほぼすべての人に利用意向があり、特に落部地域及び熊石地域はその割合が100%となっています。

利用したい教育・保育施設を地域別でみると、八雲地域は様々な教育・保育施設で利用意向が分散されており、落部地域は「認可保育園」（67.5%）と「認可外保育園」（23.8%）、熊石地域は「認可保育園」（95.1%）の割合が多くなっています。

《教育・保育施設の今後の利用意向（地域別）》



《利用したい教育・保育施設の種類（地域別/複数回答）》

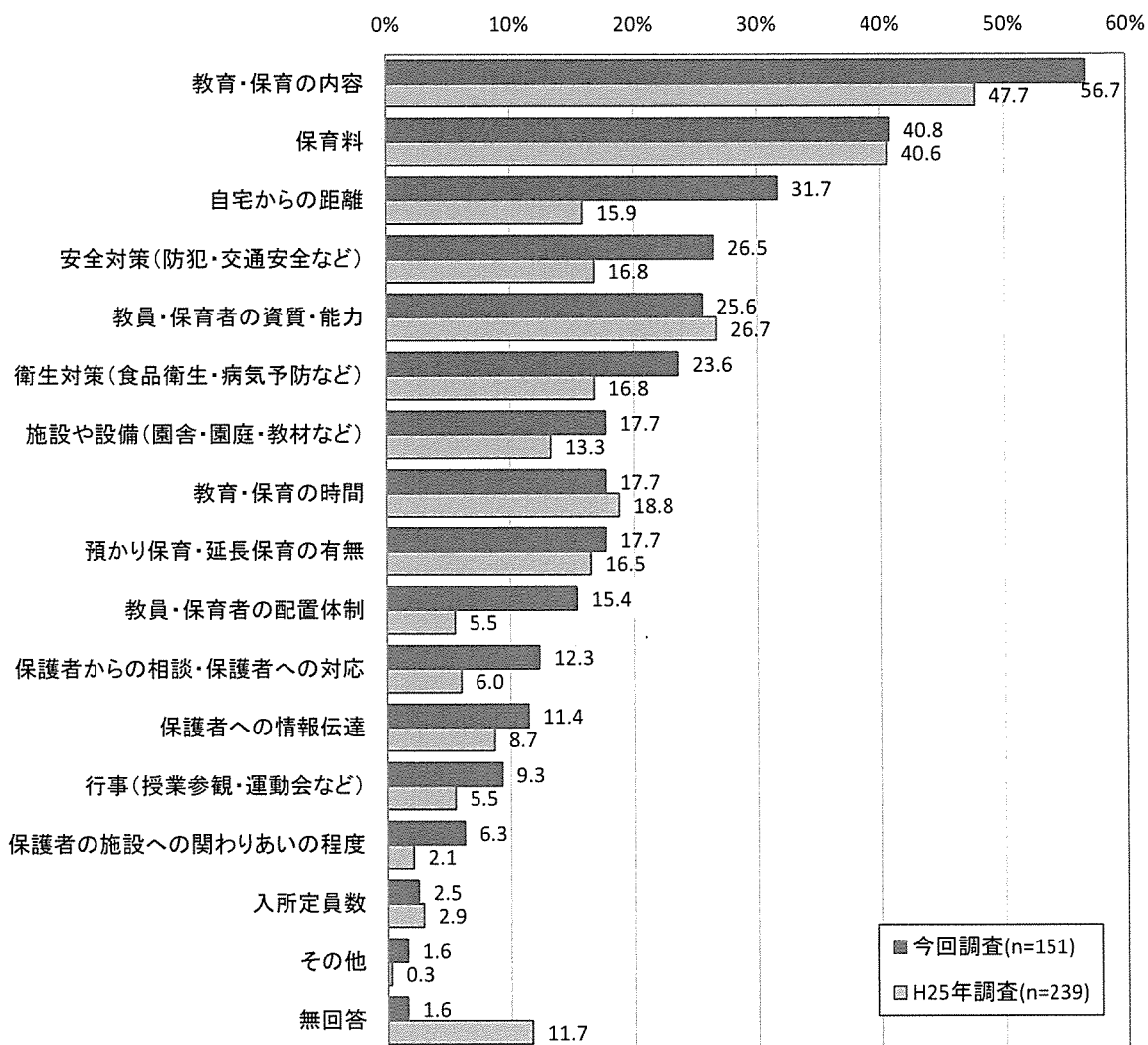


#### (4) 教育・保育施設で特に重視する条件

教育・保育施設で特に重視する条件は、「教育・保育の内容」が56.7%で最も多く、次いで「保育料」(40.8%)、「自宅からの距離」(31.7%)と続いています。

H25年調査との比較では、「教育・保育の内容」「自宅からの距離」「安全対策(防犯・交通安全など)」などが今回調査で多くなっています。

《教育・保育施設で特に重視する条件(複数回答)》



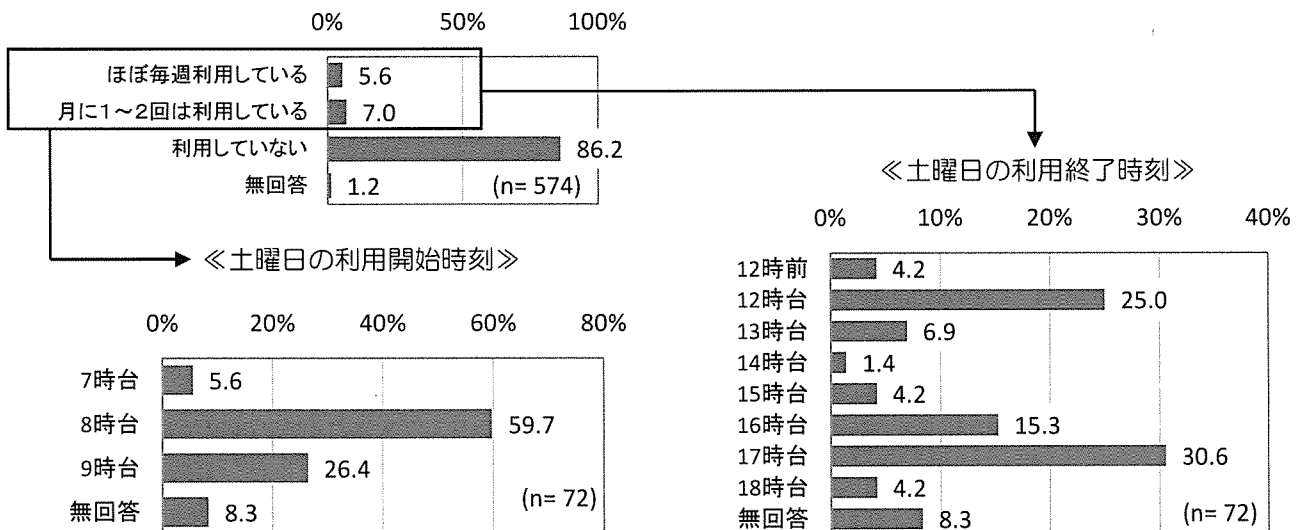
## 4 土曜・休日・長期休暇中の教育・保育施設の利用について

### (1) 教育・保育施設の土曜日の利用状況と利用意向

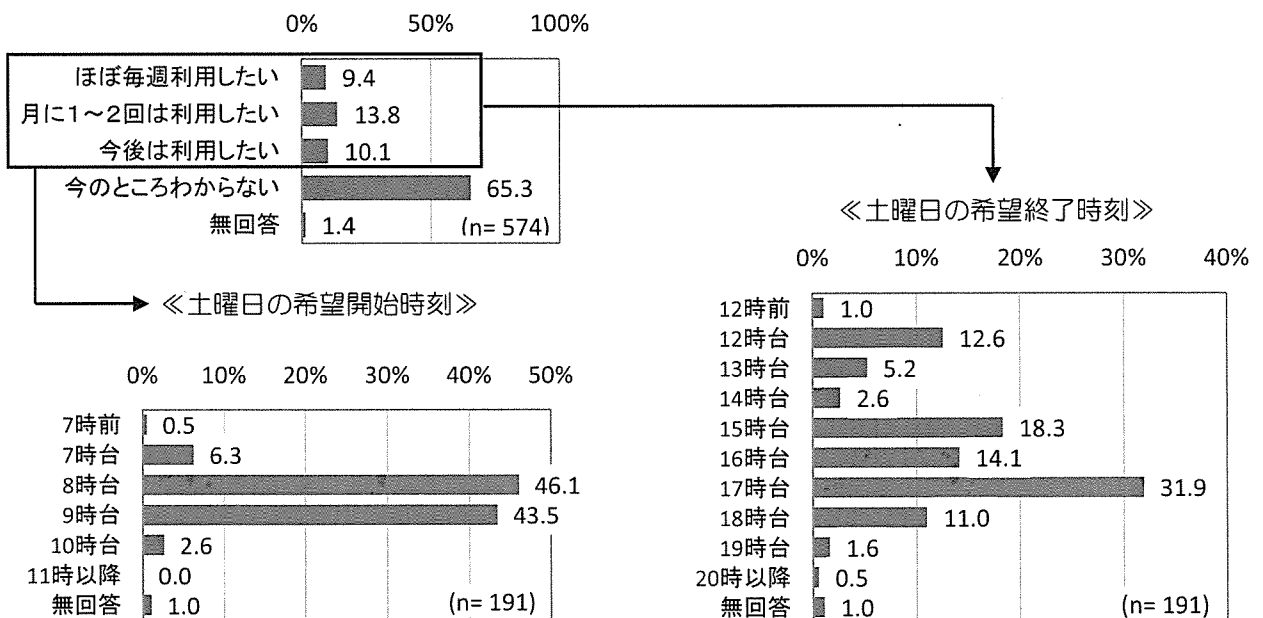
土曜日に教育・保育施設を利用している人は、「ほぼ毎週利用している」「月に1～2回は利用している」の合計で12.6%となっており、利用開始時刻は「8時台」、利用終了時刻は「17時台」がそれぞれ最も多くなっています。

土曜日の今後の利用意向をみると、利用したい人の合計は33.3%で現状よりも20.7ポイント多くなっています。利用開始時刻及び利用終了時刻の希望は18時台以降の割合がわずかに多くなっています。

《教育・保育施設の土曜日の利用状況》



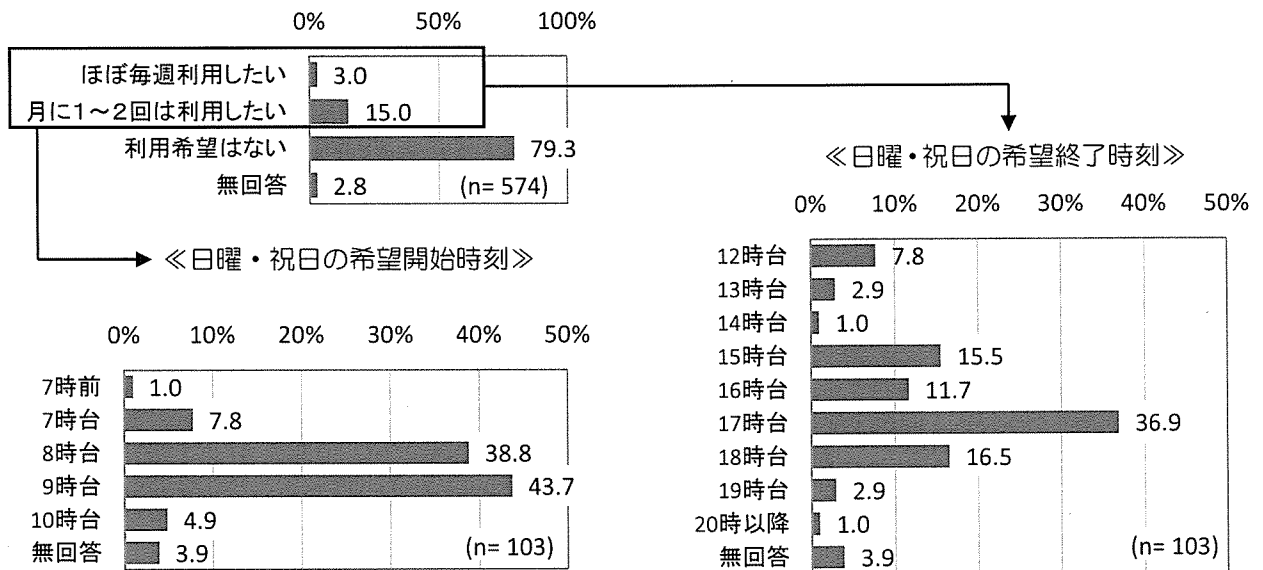
《教育・保育施設の土曜日の利用意向》



## (2) 教育・保育施設の日曜・祝日の利用意向

教育・保育施設の日曜・祝日の利用意向をみると、「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回は利用したい」の合計は18.0%となっており、希望開始時刻は「9時台」、希望終了時刻は「17時台」がそれぞれ最も多くなっています。

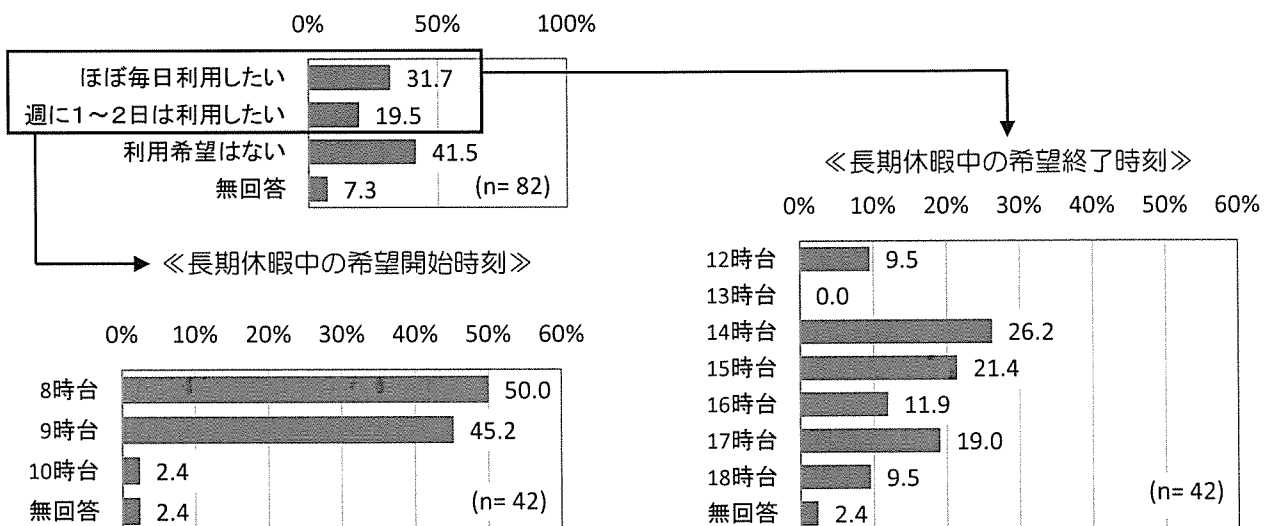
《教育・保育施設の日曜・祝日の利用意向》



## (3) 幼稚園の長期休暇中の利用意向

幼稚園を利用している人の長期休暇中の利用意向をみると、「ほぼ毎日利用したい」「週に1～2回は利用したい」の合計は51.2%となっており、希望開始時刻は「8時台」、希望終了時刻は「14時台」がそれぞれ最も多くなっています。

《幼稚園の長期休暇中の利用意向》

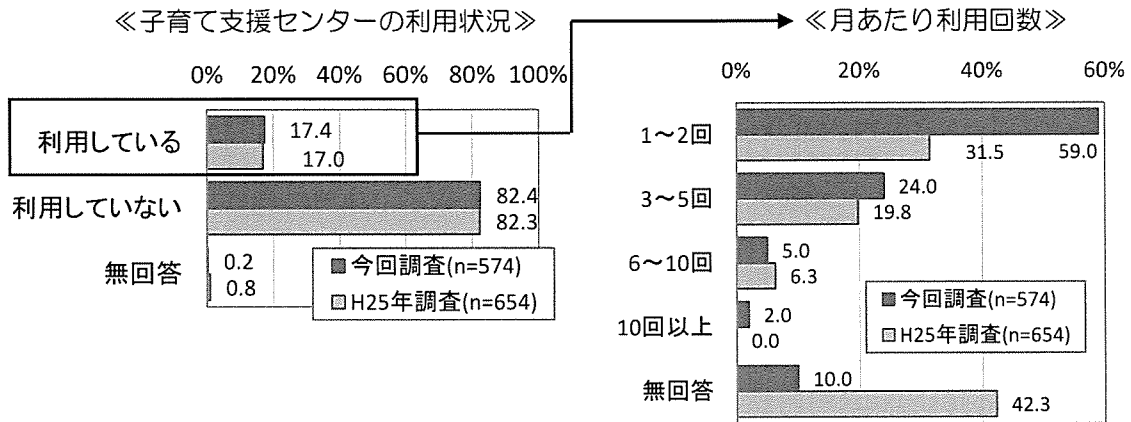


## 5 地域の子育て支援事業等の利用について

### (1) 子育て支援センターの利用状況

子育て支援センターを利用している人は17.4%で、その利用回数は月あたり「1～2回」が59.0%で最も多くなっています。

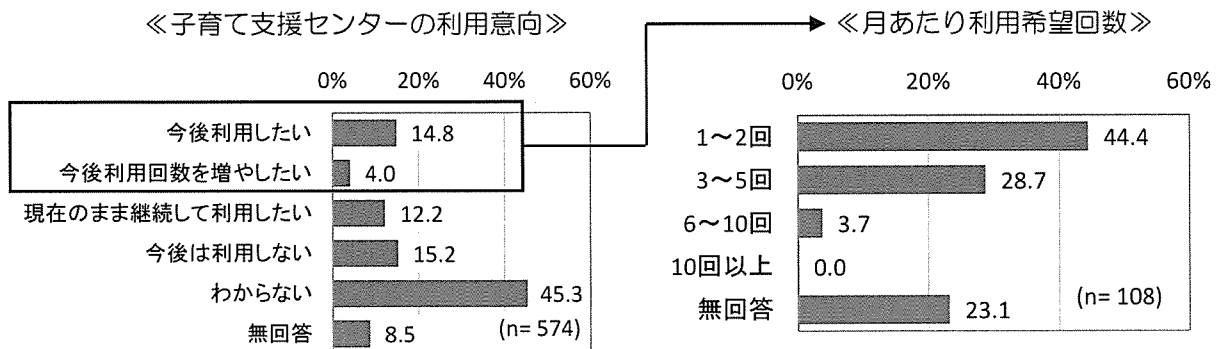
子育て支援センターの利用状況は H25年調査とは大きな差異はみられず、利用回数は H25年調査で無回答が多くあるものの、今回調査は「1～2回」が27.5ポイント多くなっています。



### (2) 子育て支援センターの今後の利用意向

今後、子育て支援センターを利用する意向がある人の合計は31.0%で、現在利用している人の17.4%を13.6ポイント上回っています。

月あたりの利用希望回数は「1～2回」が44.4%で最も多く、1人あたりの利用回数は現状から大きな変化はないと考えられます。

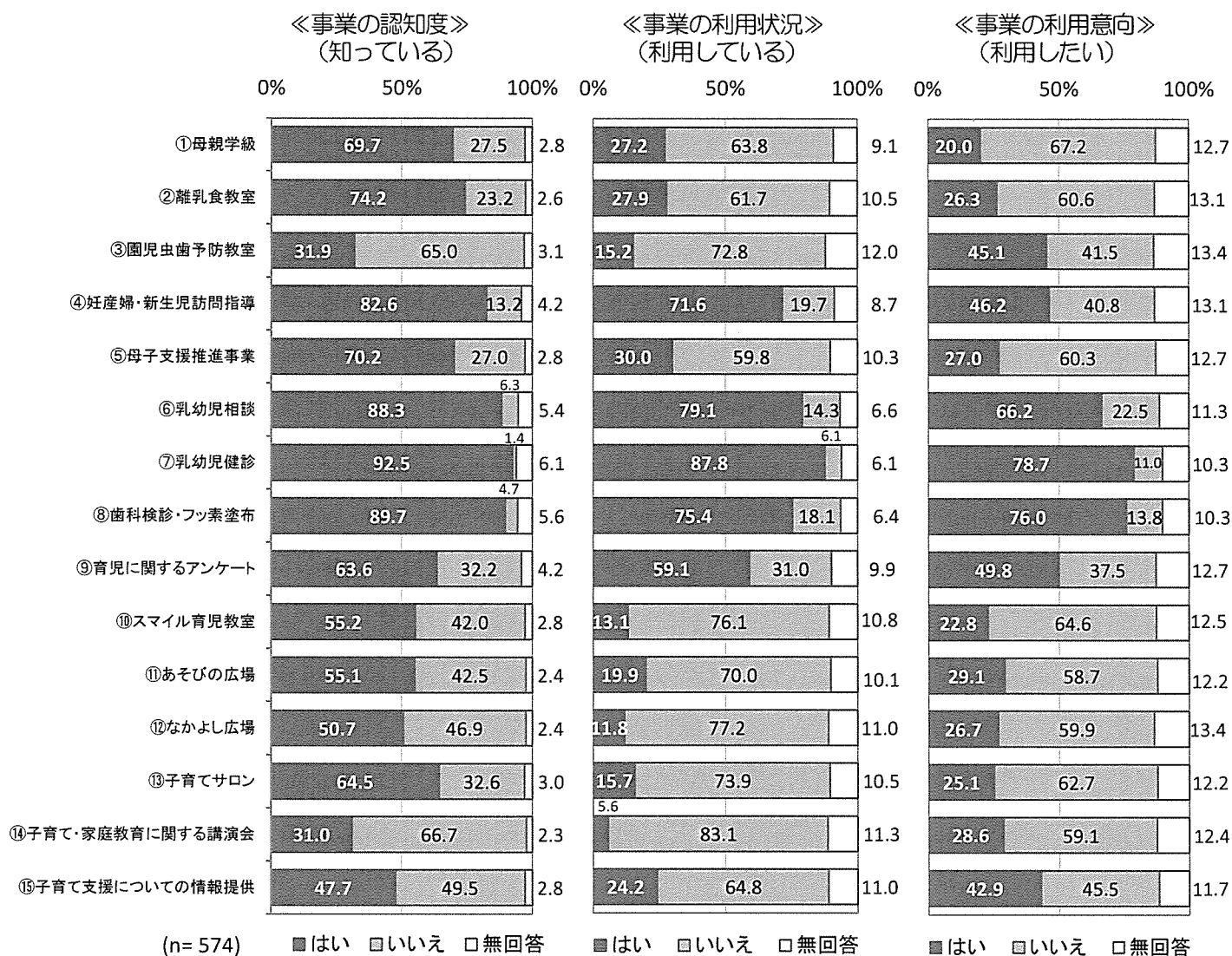




### (3) 子育て支援事業の利用意向

子育て支援事業の認知度は、「⑥乳幼児相談」(88.3%)、「⑦乳幼児健診」(92.5%)、「⑧歯科検診・フッ素塗布」(89.7%)が約9割と高くなっています。一方、「③園児虫歯予防教室」(31.9%)、「⑭子育て・家庭教育に関する講演会」(31.0%)は認知度が低く、今後も周知活動が必要であると考えられます。

利用状況及び利用意向はおおむね認知度に比例した結果となっていますが、「③園児虫歯予防教室」は認知度の31.9%に対して利用意向は45.1%と認知度を上回っており、ニーズが高い事業であると考えられます。



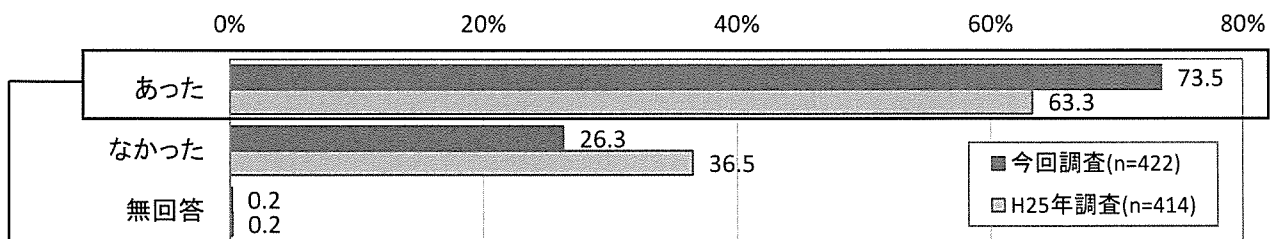
## 6 子どもが病気やケガのときの対応について

### (1) 子どもが病気やケガのときの対応方法

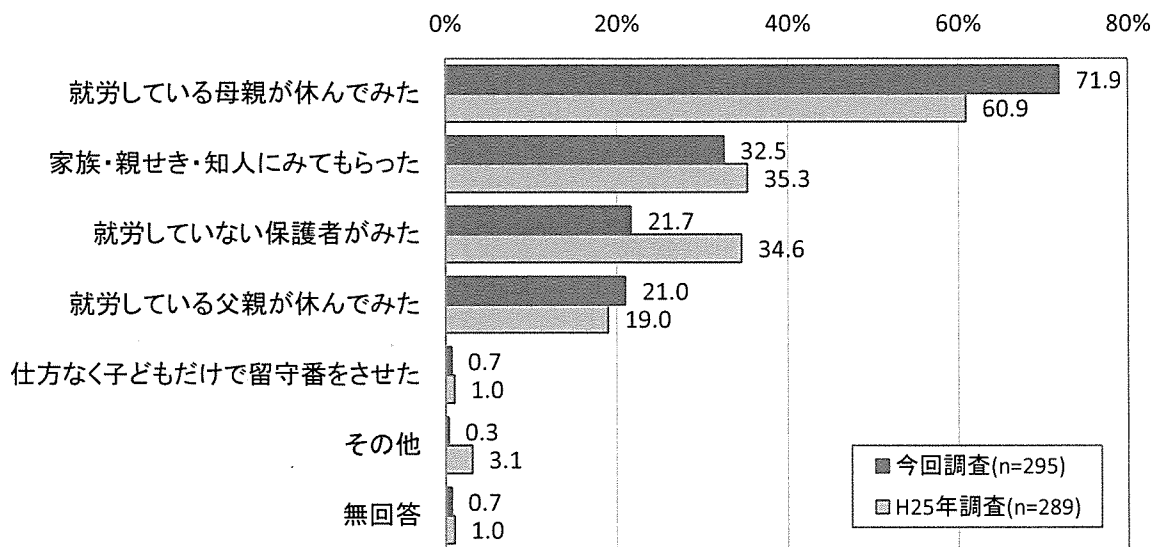
子どもが病気やケガのときに幼稚園・保育所等を休んだことが「あった」人は73.5%で、その対処方法は、「就労している母親が休んでみた」が71.9%を占めています。

H25年調査との比較では、子どもが病気やケガのときに幼稚園・保育所等を休んだことが「あった」人は今回調査で10.2ポイント多くなっています。また、子どもが病気やケガのときの対処方法は、「就労している母親が休んでみた」が11.0ポイント多くなっているのに対し、「就労していない保護者がみた」が12.9ポイント少なくなっています。

《子どもが病気やケガのときの幼稚園・保育所等を休んだことがあるか》



《子どもが病気やケガのときの対処方法（複数回答）》

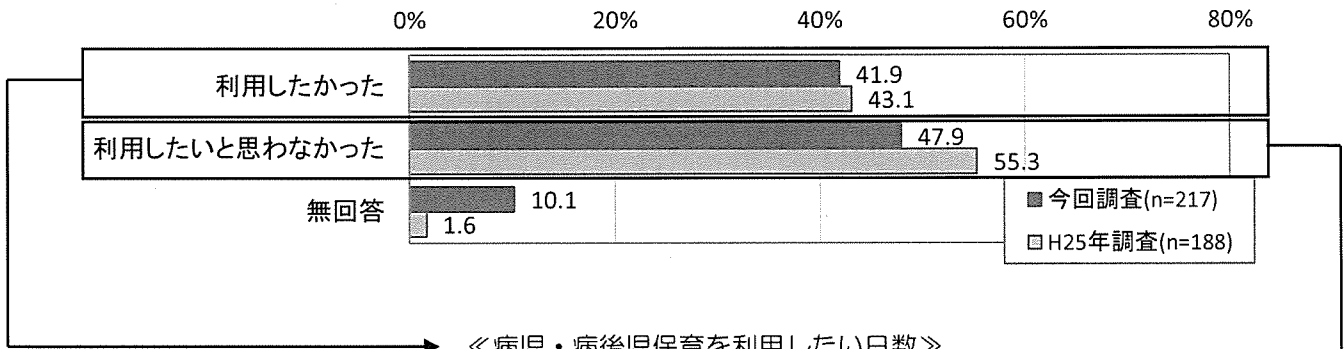


## (2) 病児・病後児保育の利用意向

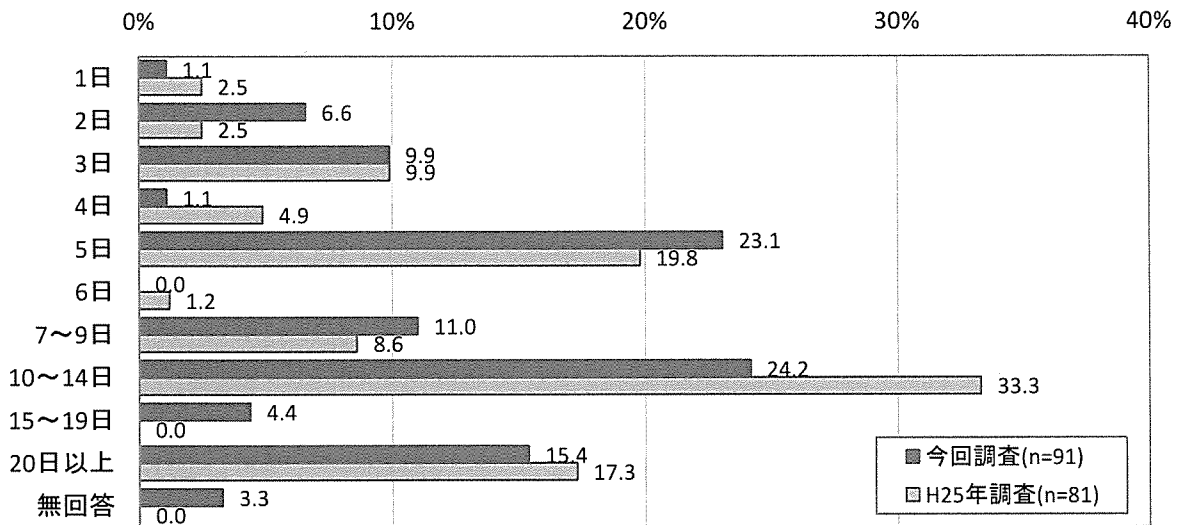
子どもが病気やケガのときに「就労している母親が休んでみた」「就労している父親が休んでみた」と回答した人に病児・病後児保育の利用意向をたずねたところ、「利用したかった」と回答した人は41.9%で、その利用したい日数は「10～14日」が24.2%で最も多くなっています。

「利用したいと思わなかった」と回答した人の理由は、「病気やケガのときは子どものそばにいてやりたい」が66.3%で最も多く、次いで「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安だ」が43.3%で続いています。

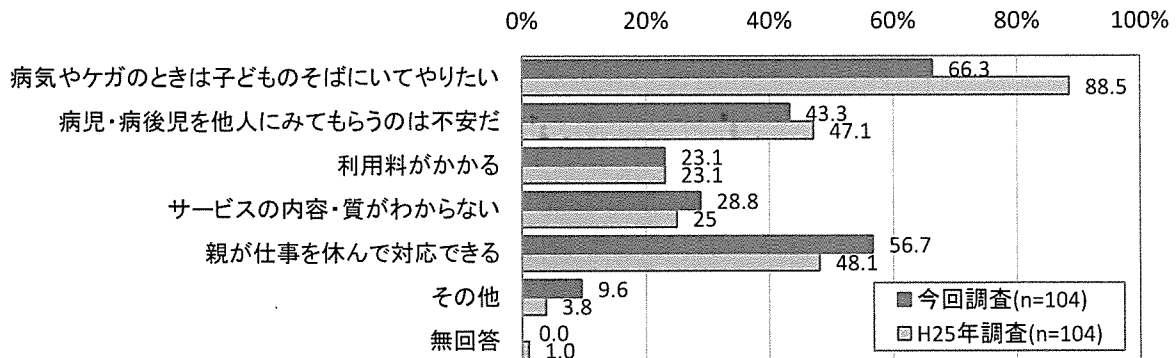
《子どもが病気やケガのとき、病児・病後児保育を利用したいと思ったか》



《病児・病後児保育を利用したい日数》



《病児・病後児保育を利用しない理由（複数回答）》



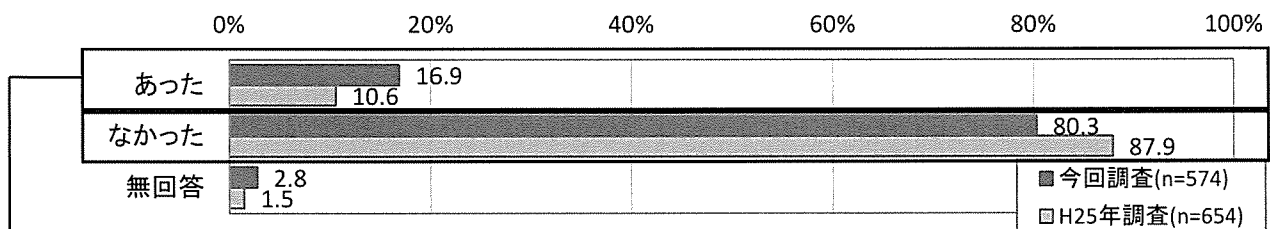
## 7 一時預かり等の不定期な利用について

### (1) 一時預かり等の利用状況

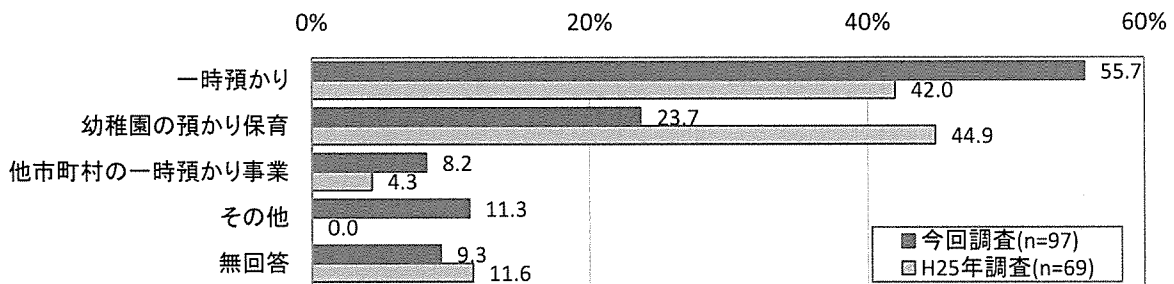
これまで、私用等で一時預かり等を不定期に利用したことが「あった」人は16.9%でH25年調査よりも6.3ポイントとわずかに多い状況です。一時預かり等で利用したことがある事業は、「一時預かり」が55.7%、「幼稚園の預かり保育」が23.7%となっています。

これまで一時預かり等を利用しなかった理由は、「特に利用する必要がない」が60.3%を占めていますが、「事業を知らない」が15.0%、「利用方法がわからない」が11.1%と相応の割合があることから、事業の周知を今後も続けていく必要があります。

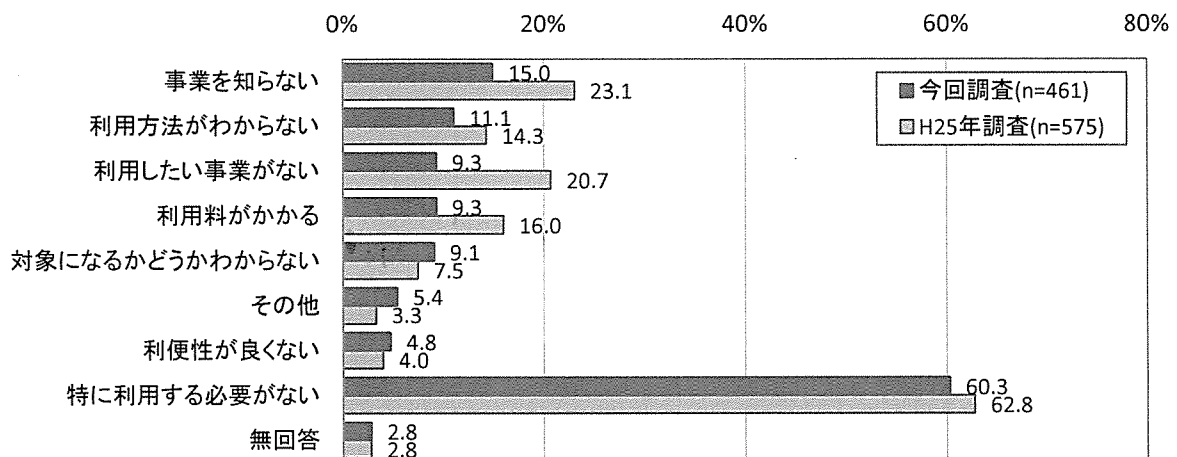
《一時預かり等を利用したことがあったか》



《一時預かり等で利用した事業（複数回答）》



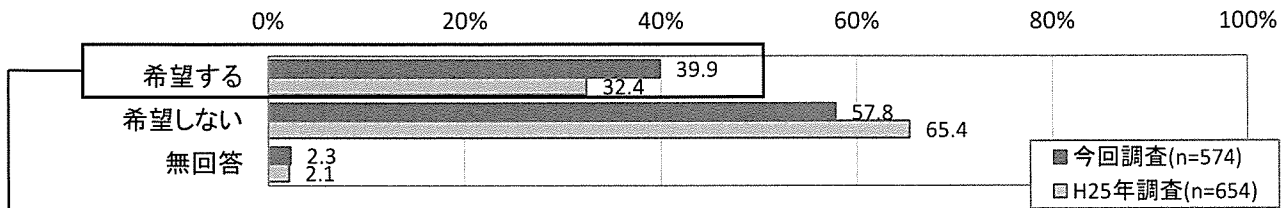
《一時預かり等を利用しなかった理由（複数回答）》



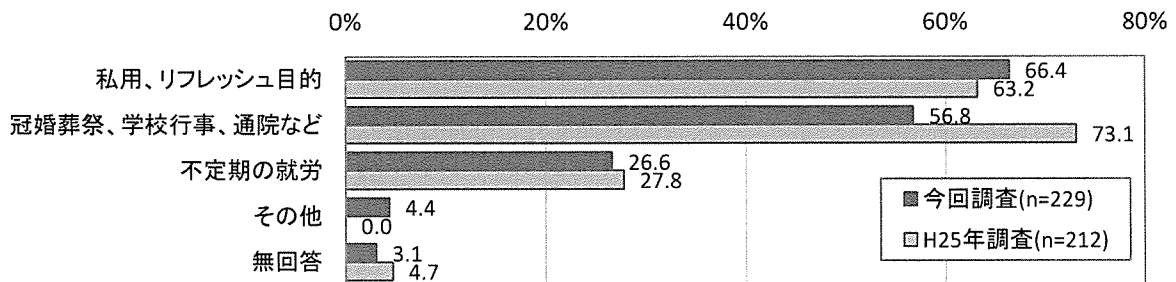
## (2) 一時預かり等の利用意向

今後の一時預かり等の利用を「希望する」人は39.9%で、H25年調査と比べて7.5ポイント増加しています。一時預かり等を利用する理由としては、「私用、リフレッシュ目的」(66.4%)、「冠婚葬祭、学校行事、通院など」(56.8%)の割合が高くなっています。

《今後、一時預かり等の利用を希望するか》



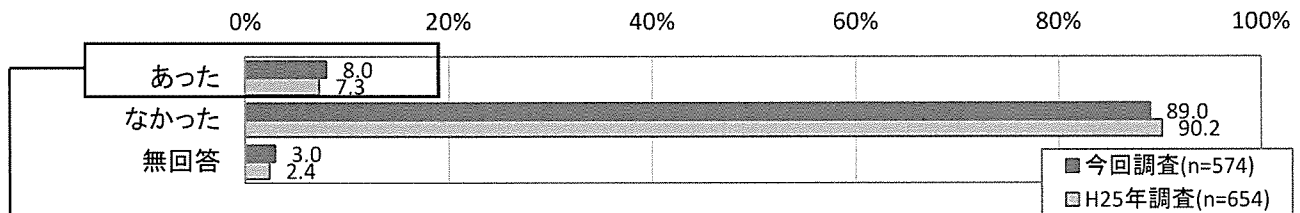
《一時預かり等を利用する理由(複数回答)》



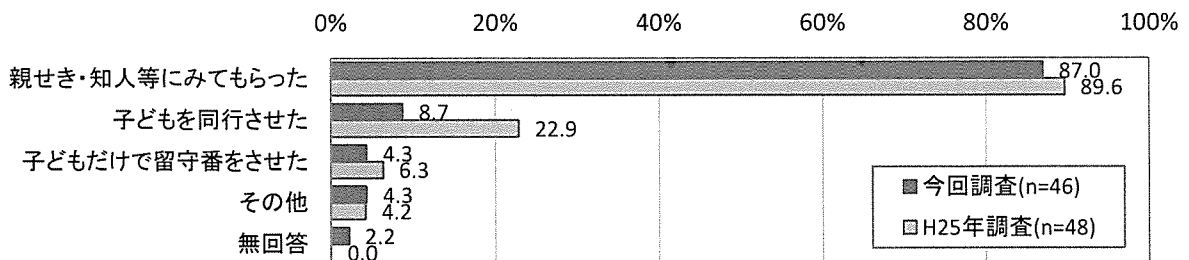
## (3) 子どもを泊まりがけで預けなければいけないときの対応

子どもを泊まりがけで預けなければいけないことが「あった」人は8.0%で H25年調査と大きな差異はありません。また、その際の対応としては、「親せき・知人等にみてもらった」が87.0%を占めています。

《子どもを泊まりがけで預けなければいけないことがあったか》



《子どもを泊まりがけで預けなければいけないときの対応(複数回答)》



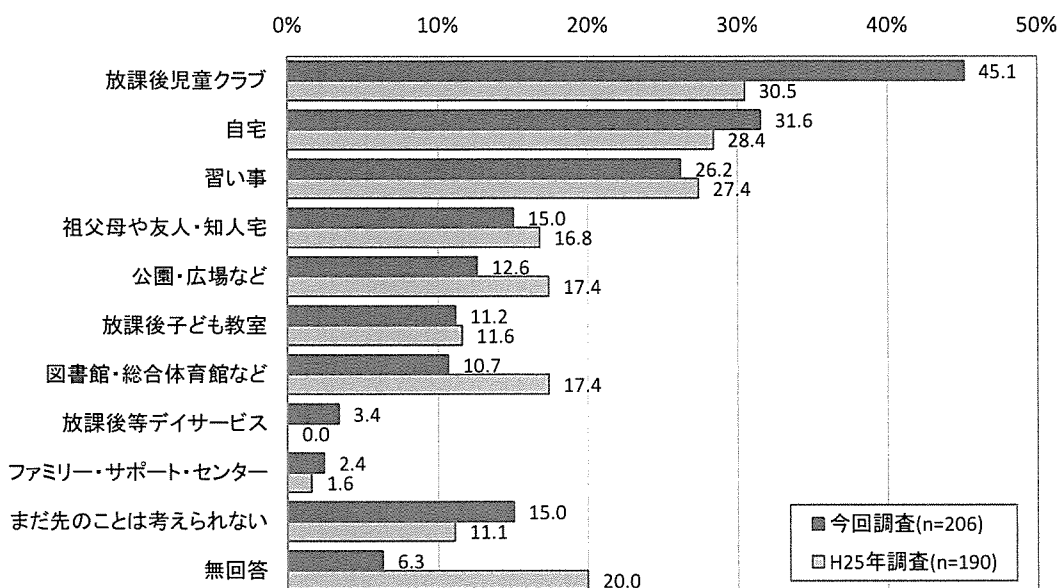
## 8 小学校入学後の放課後の過ごし方について

### (1) 放課後に過ごさせたい場所

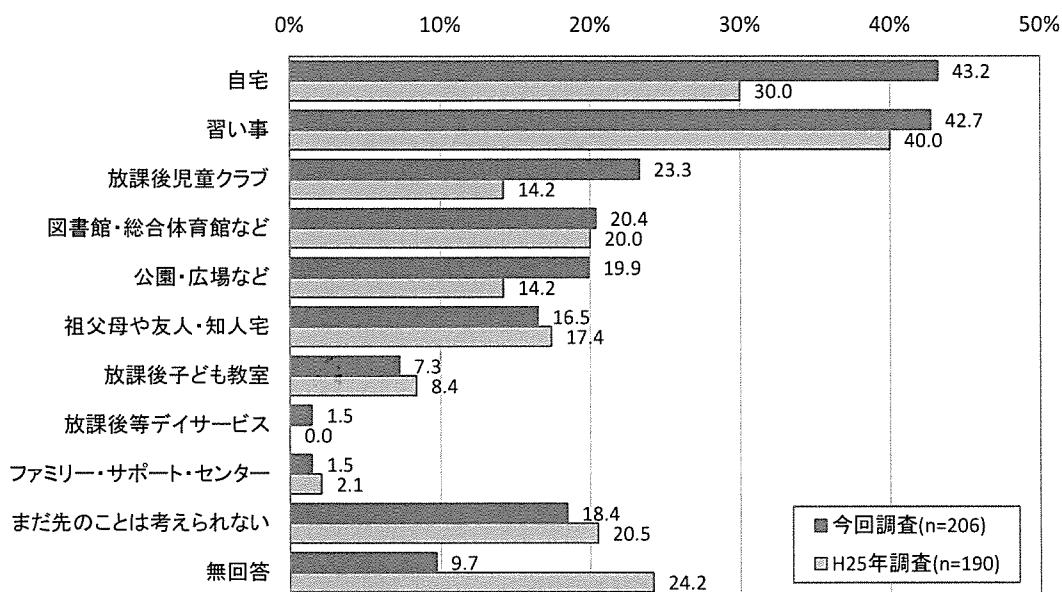
2019年度及び2020年度に小学校入学予定のお子さんがある保護者に対して、小学校低学年の間、放課後に過ごさせたい場所をたずねたところ、「放課後児童クラブ」が45.1%で最も多く、H25年調査と比べて14.6ポイント高くなっています。

小学校高学年の間は、「自宅」(43.2%)及び「習い事」(42.7%)が他の選択肢と比べて突出しており、「放課後児童クラブ」は23.3%で3番目に多い回答となっています。

《低学年の間、放課後に過ごさせたい場所（複数回答）》



《高学年の間、放課後に過ごさせたい場所（複数回答）》

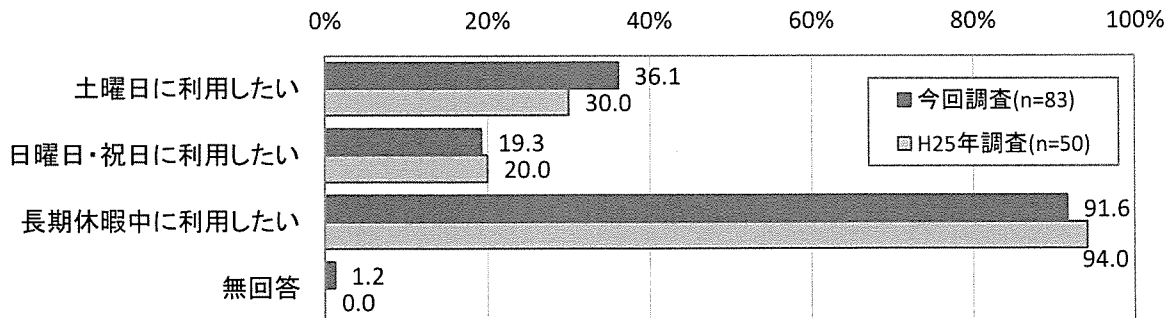


※「放課後等デイサービス」は、H25年調査では選択肢になかったため0.0%となっています。

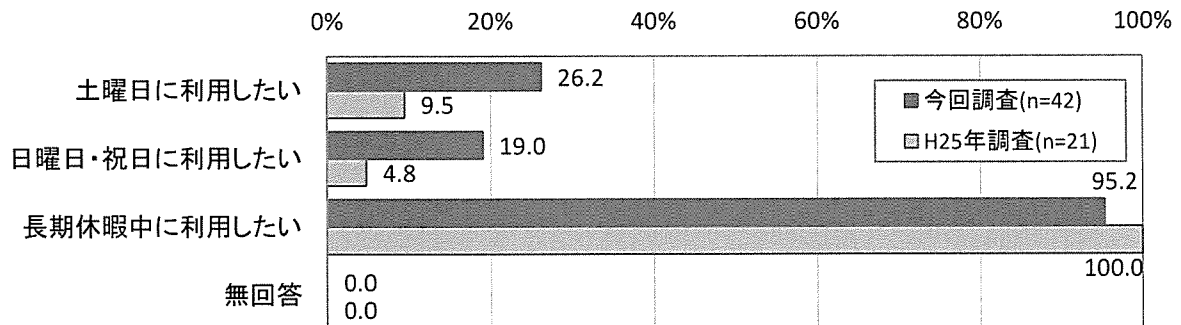
## (2) 土曜、日曜・祝日等の放課後児童クラブの利用意向

放課後児童クラブの利用を希望している人に、土曜、日曜・祝日等の利用意向をたずねたところ、低学年及び高学年ともに「長期休暇中に利用したい」が9割を超えている状況です。

《低学年の間、土曜、日曜・祝日等に放課後児童クラブの利用を希望するか（複数回答）》



《高学年の間、土曜、日曜・祝日等に放課後児童クラブの利用を希望するか（複数回答）》



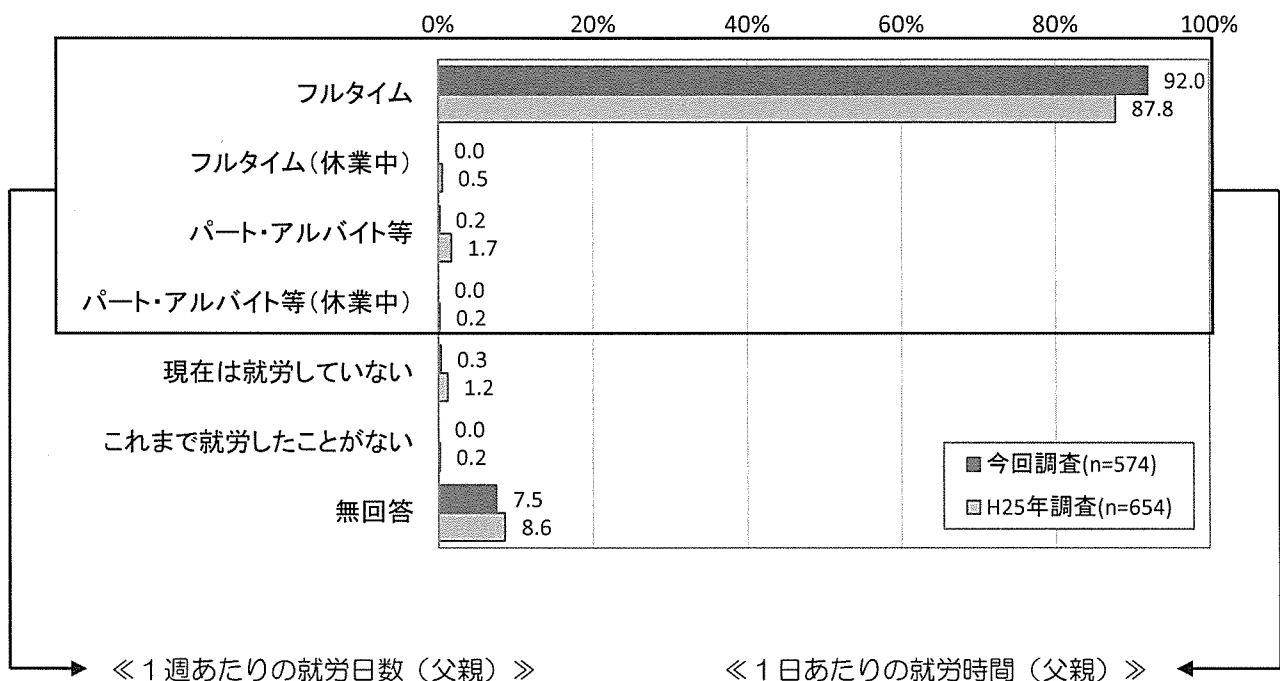
## 9 保護者の就労状況について

### (1) 父親の現在の就労状況

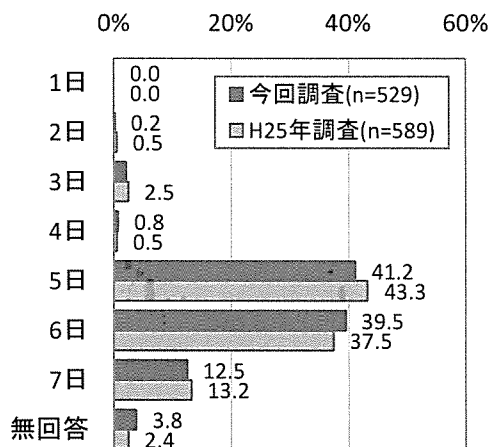
父親の現在の就労状況は、「フルタイム」が92.0%を占めており、H25年調査とほぼ同じ結果となっています。

パート・アルバイト等を含めた週あたりの就労日数は「5日」（41.2%）が最も多いものの、「6日」（39.5%）もほぼ同じ割合となっています。また、1日あたりの就労時間は「8～9時間未満」（33.6%）に次いで「12時間超」も22.9%となっていますが、H25年調査と比較すると、今回調査は就労時間が10時間以上を超えている人が減少し、10時間未満の人は増加しているため、全体的な傾向として就労時間は短くなっていると考えられます。

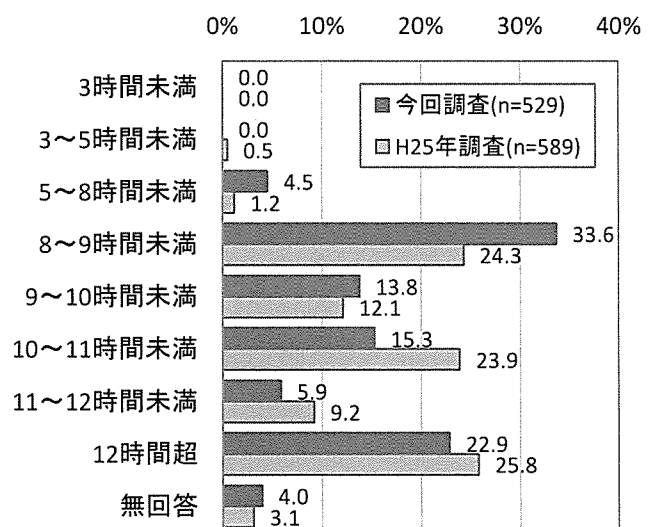
《現在の就労状況（父親）》



《1週あたりの就労日数（父親）》



《1日あたりの就労時間（父親）》



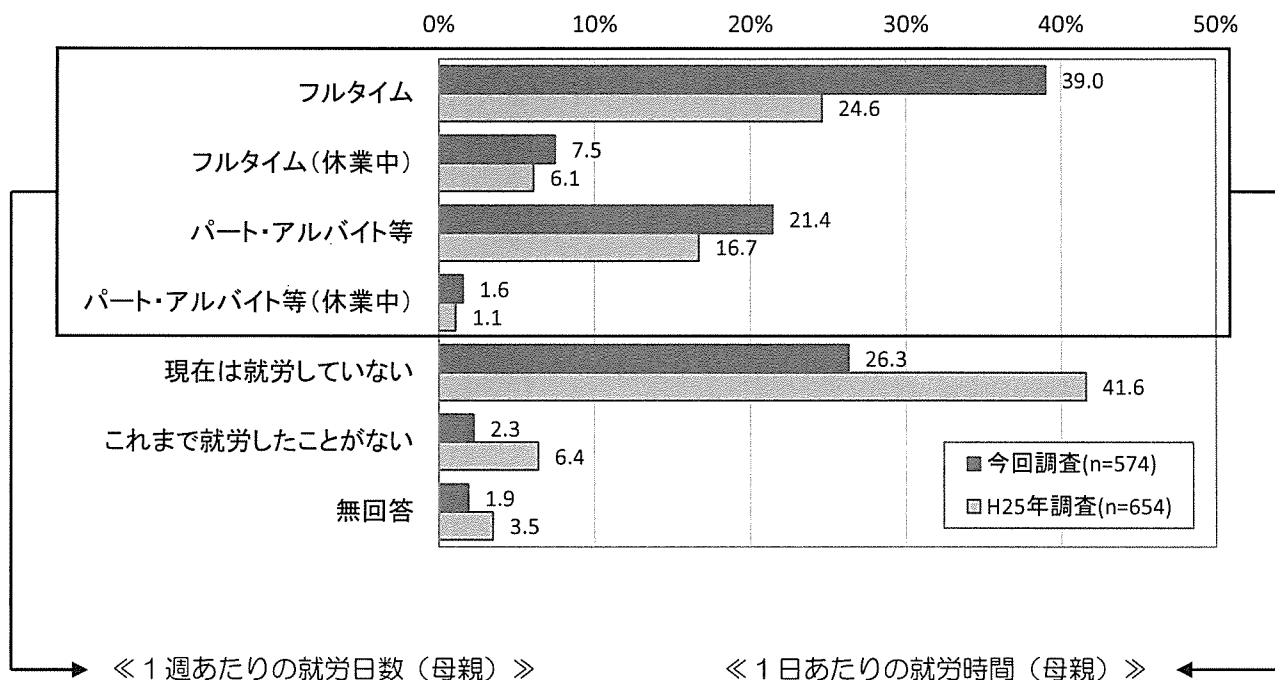


## (2) 母親の現在の就労状況

母親の現在の就労状況は、「フルタイム」が39.0%で最も多く、次いで「現在は就労していない」が26.3%が続いています。H25年調査と比べると、「フルタイム」「パート・アルバイト等」が増加し、未就労の母親は減少しています。

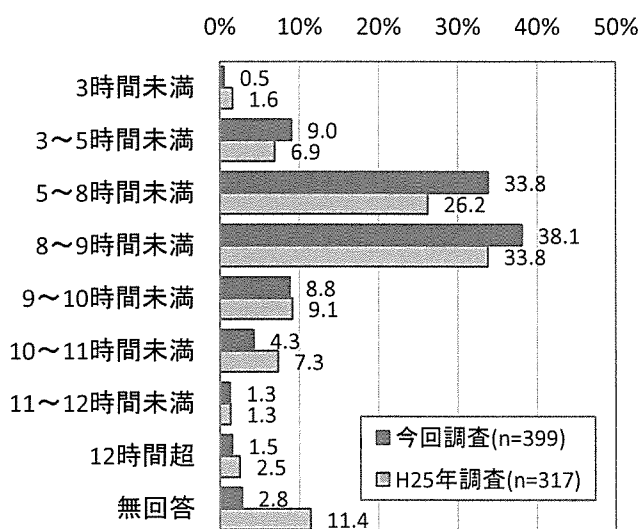
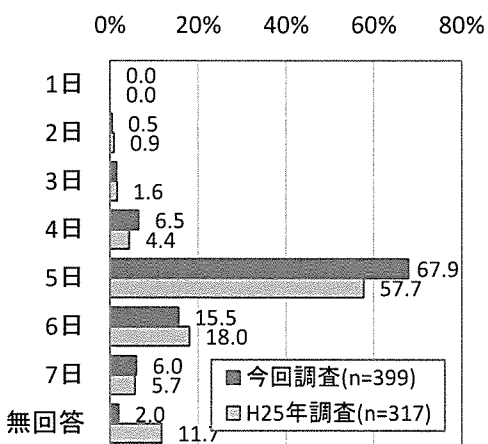
パート・アルバイト等を含めた週あたりの就労日数は「5日」が67.9%で最も多く、1日あたりの就労時間は「8～9時間未満」(38.1%)に次いで「5～8時間未満」も33.8%が続いており、パート・アルバイト等の人の中でもフルタイムに近い就労状況の人が多くと考えられます。

《現在の就労状況（母親）》



《1週あたりの就労日数（母親）》

《1日あたりの就労時間（母親）》

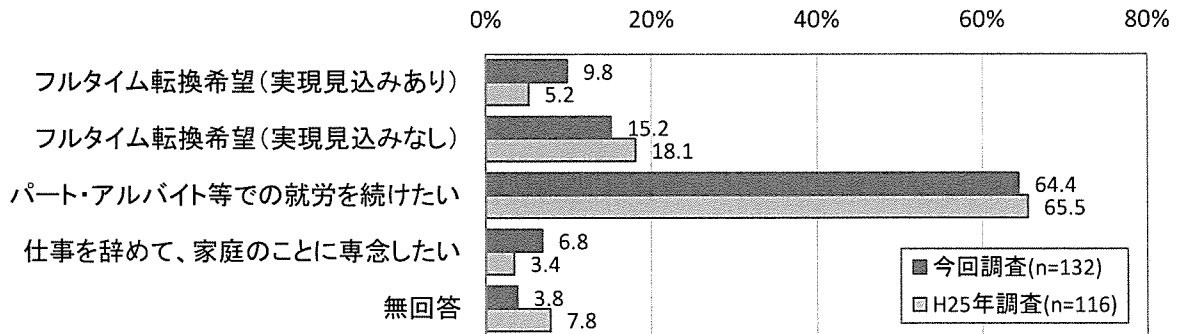


### (3) 母親の今後の就労意向

#### ①パート・アルバイト等で就労している母親の就労意向

パート・アルバイト等で就労している母親にフルタイムへの転換意向をたずねたところ、「パート・アルバイト等での就労を続けたい」が64.4%を占め、フルタイムへの転換を希望する人は、実現の見込みのありとなしの合計で25.0%となっています。

《今後の就労意向（パート・アルバイト等で就労している母親）》

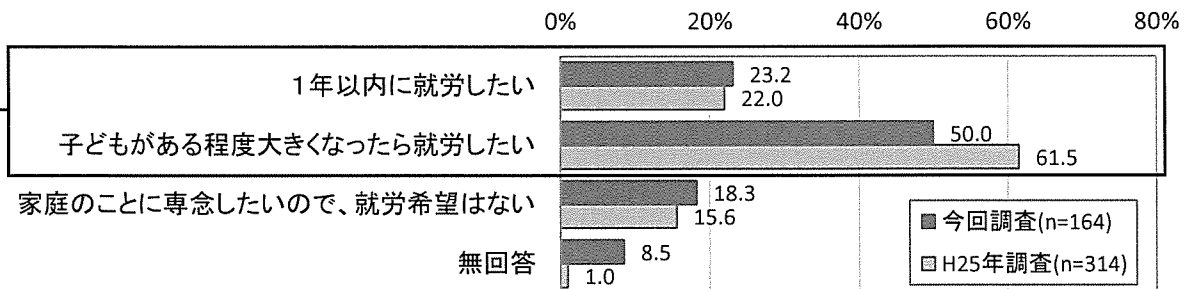


#### ②未就労の母親の就労意向

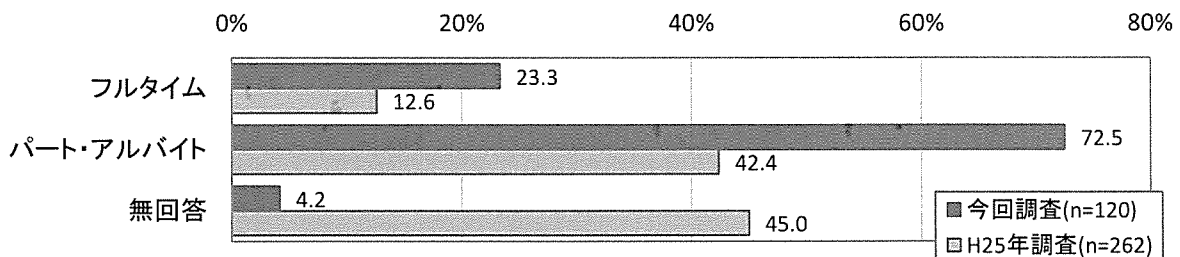
未就労の母親に今後の就労意向をたずねたところ、「子どもがある程度大きくなったら就労したい」が50.0%で最も多く、「1年以内に就労したい」は23.2%、「家庭のことに専念したいので、就労希望はない」が18.3%となっています。

就労意向のある人が希望する就労形態は、「パート・アルバイト」が72.5%を占めています。

《今後の就労意向（未就労の母親）》



《希望する就労形態（未就労の母親）》



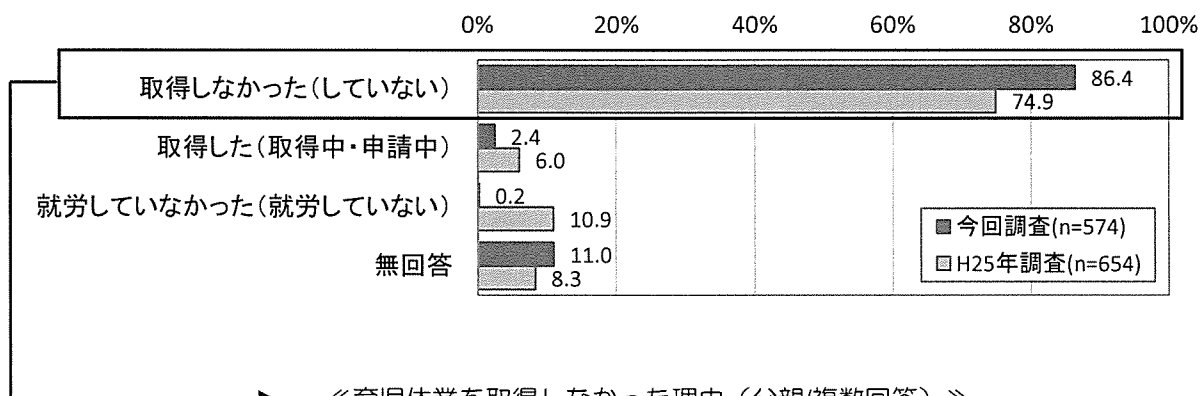
# 10 職場の両立支援制度について

## (1) 父親の育児休業の取得状況

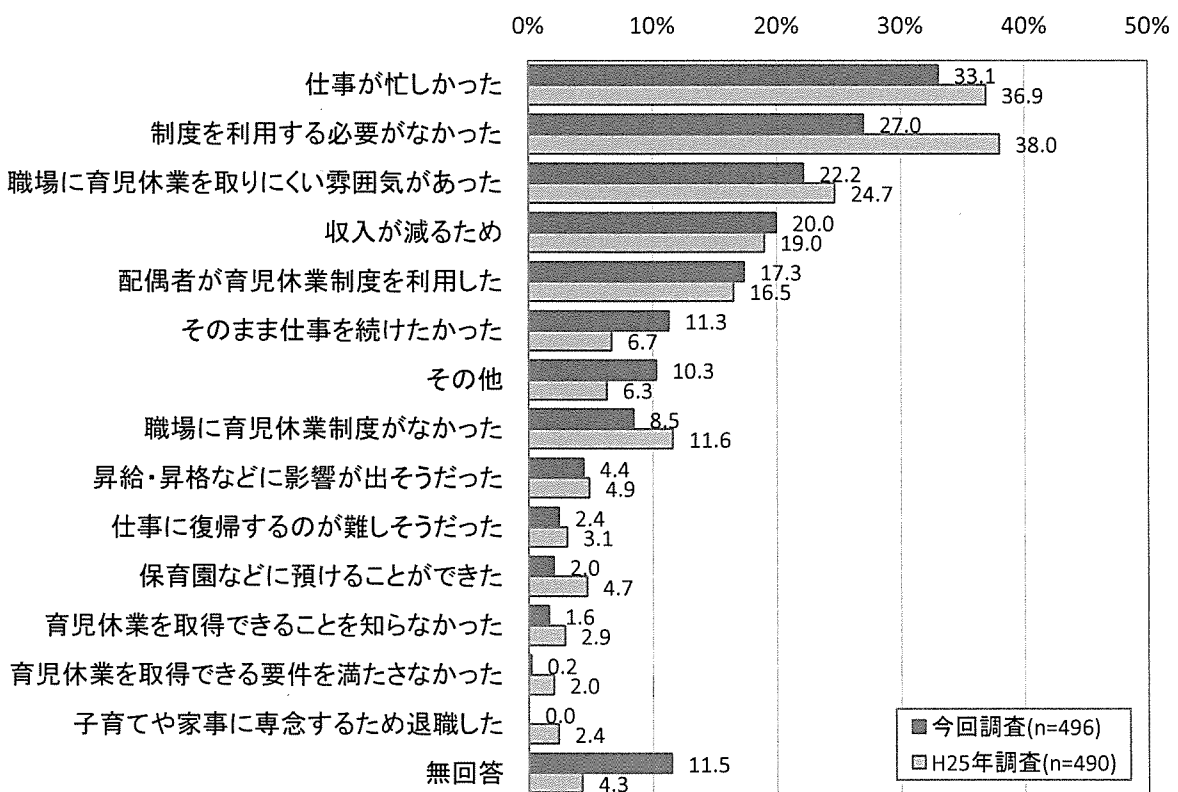
父親の育児休業の取得状況は、「取得しなかった（していない）」が86.4%を占めており、H25年調査よりも11.5ポイント多くなっています。

育児休業を取得しなかった理由は、「仕事が忙しかった」（33.1%）、「制度を利用する必要がなかった」（27.0%）が上位回答となっており、H25年調査と傾向はほぼ同じですが、その割合は今回調査では少なくなっています。

《育児休業の取得状況（父親）》



《育児休業を取得しなかった理由（父親/複数回答）》

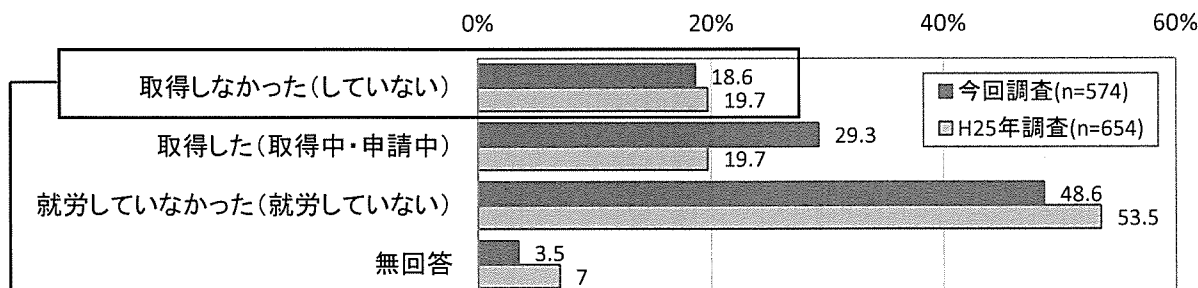


## (2) 母親の育児休業の取得状況

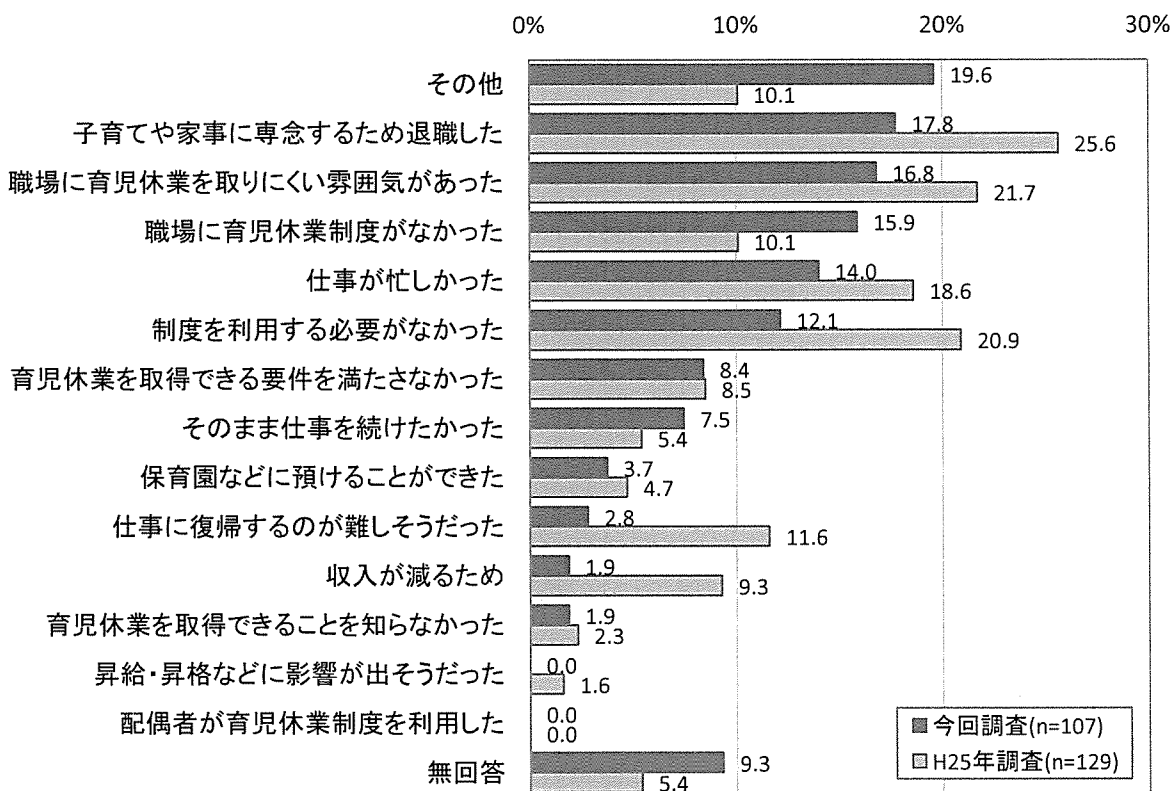
母親の育児休業の取得状況は、「就労していなかった（就労していない）」が48.6%で最も多く、次いで「取得した（取得中・申請中）」（29.3%）、「取得しなかった（していない）」（18.6%）の順となっています。H25年調査と比べると「取得した（取得中・申請中）」が9.6ポイント増加しています。

育児休業を取得していない人のその理由は、「その他」が19.6%で最も多く、その内容は「自営業のため」が多くなっています。また、「子育てや家事に専念するため退職した」（17.8%）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（16.8%）が上位回答となっていることから、子育てと仕事の両立や育児休業制度に対する理解は今後も周知・啓発していく必要があると考えられます。

《育児休業の取得状況（母親）》



《育児休業を取得しなかった理由（母親/複数回答）》



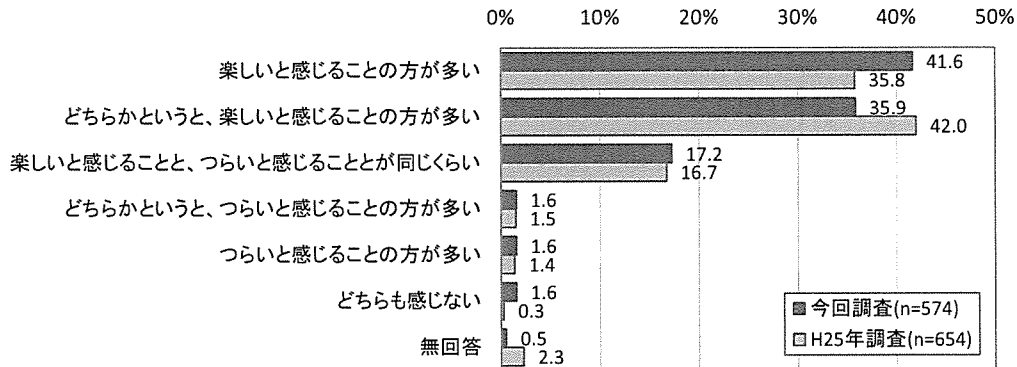
※その他：自営業のため（11人）

# 11 子育て全般について

## (1) 子育て・教育で感じること

子育て・教育で感じることは、「楽しいと感じることの方が多い」(41.6%)、「どちらかという  
と、楽しいと感じることの方が多い」(35.9%)が上位回答で、合計77.5%が楽しいと感じている状  
況にあり、H25年調査とおおむね傾向は同じ結果となっています。

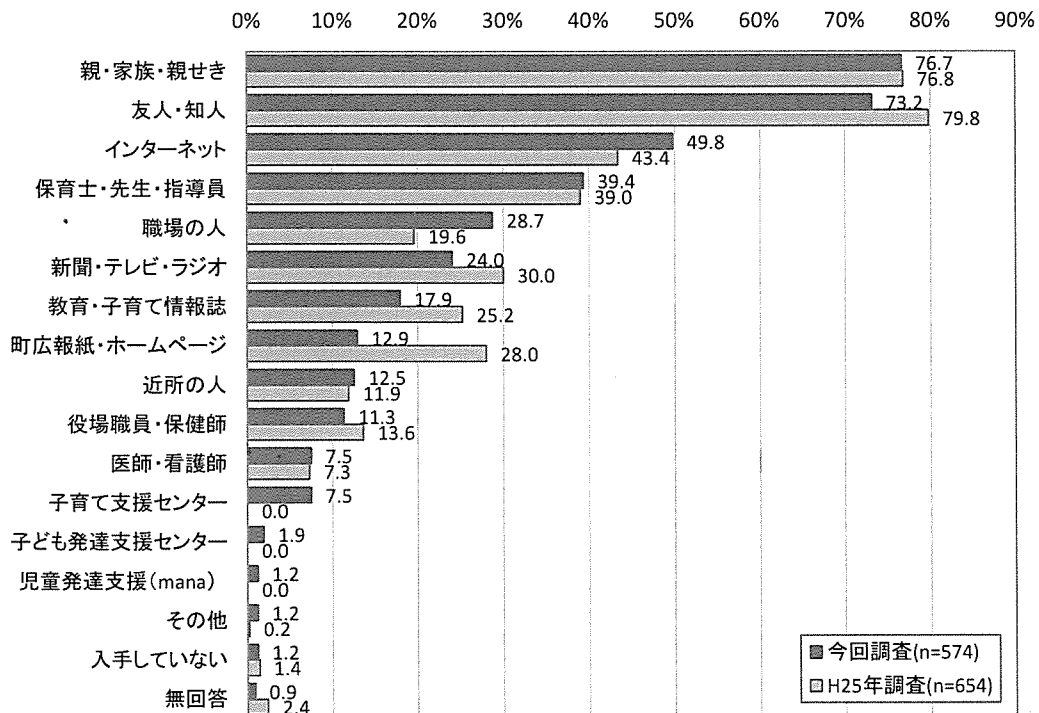
《子育て・教育で感じること》



## (2) 子育て・教育に関する情報の入手先

子育て・教育に関する情報の入手先は、「親・家族・親せき」(76.7%)、「友人・知人」(73.2%)  
が上位回答となっており、次いで「インターネット」(49.8%)、「保育士・先生・指導員」(39.4%)  
が続いています。

《子育て・教育に関する情報の入手先(複数回答)》



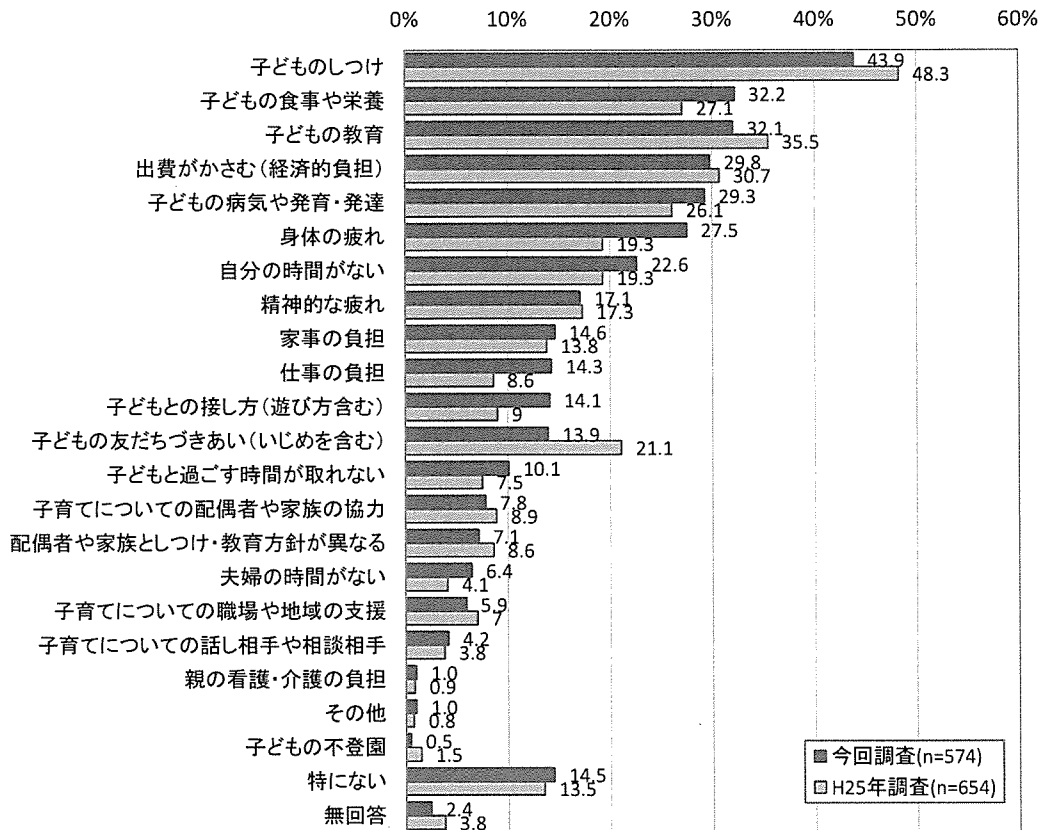
※「子育て支援センター」「児童発達支援センター」「児童発達支援(mana)」は、H25年調査では選択肢になかったため0.0%となっています。

### (3) 子育て・教育に関する悩み

子育て・教育に関する悩みは、「子どものしつけ」が43.9%で最も多く、次いで「子どもの食事や栄養」(32.2%)、「子どもの教育」(32.1%)が続いています。

H25年調査と比較すると、今回調査は「身体の疲れ」が8.2ポイント増加し、「子どもの友だちづきあい(いじめを含む)」が7.2ポイント減少しています。

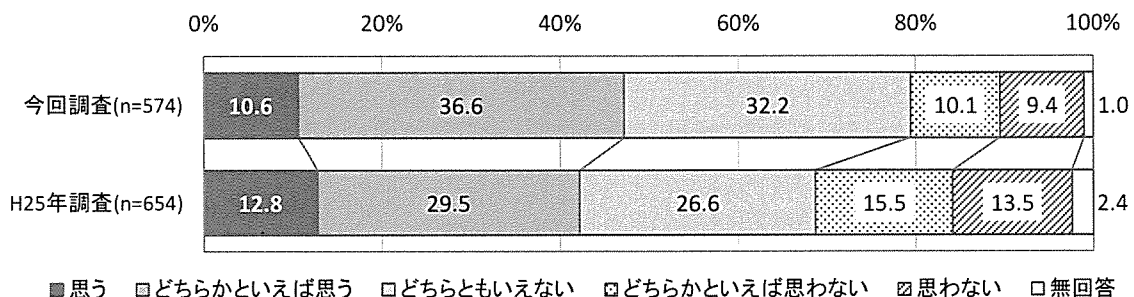
《子育て・教育に関する悩み(複数回答)》



### (4) 八雲町の子育て・教育のしやすさ

八雲町の子育て・教育のしやすさは、「思う」(10.6%)、「どちらかといえば思う」(36.6%)の合計は47.2%で、H25年調査の42.3%を上回る結果となっています。また、「どちらかといえば思わない」(10.1%)、「思わない」(9.4%)のそれぞれがH25年調査を下回っており、子育て・教育のしやすさはわずかながら改善されてきていると考えられます。

《八雲町は子育て・教育をしやすい町だと思うか》

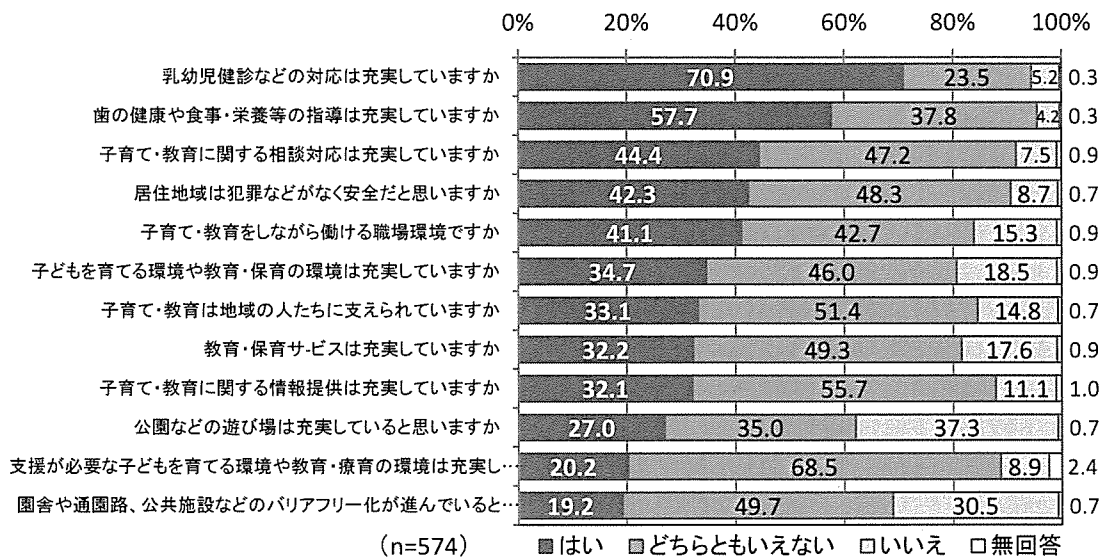


## (5) 子育て・教育の施策評価

子育て・教育の施策に関して、評価が高い施策（「はい」が多い施策）は、「乳幼児健診などの対応は充実していますか」（70.9%）、「歯の健康や食事・栄養等の指導は充実していますか」（57.7%）となっています。

一方、評価が低い施策（「いいえ」が多い施策）は、「公園などの遊び場は充実していると思いますか」（37.3%）、「園舎や通園路、公共施設などのバリアフリー化が進んでいると思いますか」（30.5%）となっています。

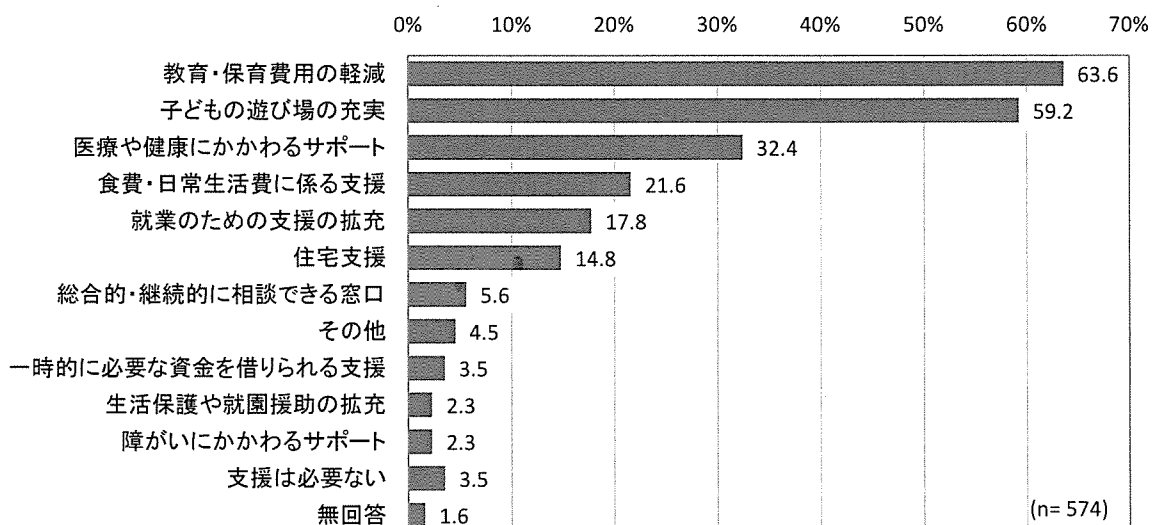
《子育て・教育の施策評価》



## (6) 保護者が現在必要としている支援

保護者が現在必要としている支援は、「教育・保育費用の軽減」（63.6%）、「子どもの遊び場の充実」（59.2%）が上位回答となっているほか、「医療や健康にかかわるサポート」も32.4%と多くなっています。

《保護者が現在必要としている支援（複数回答）》



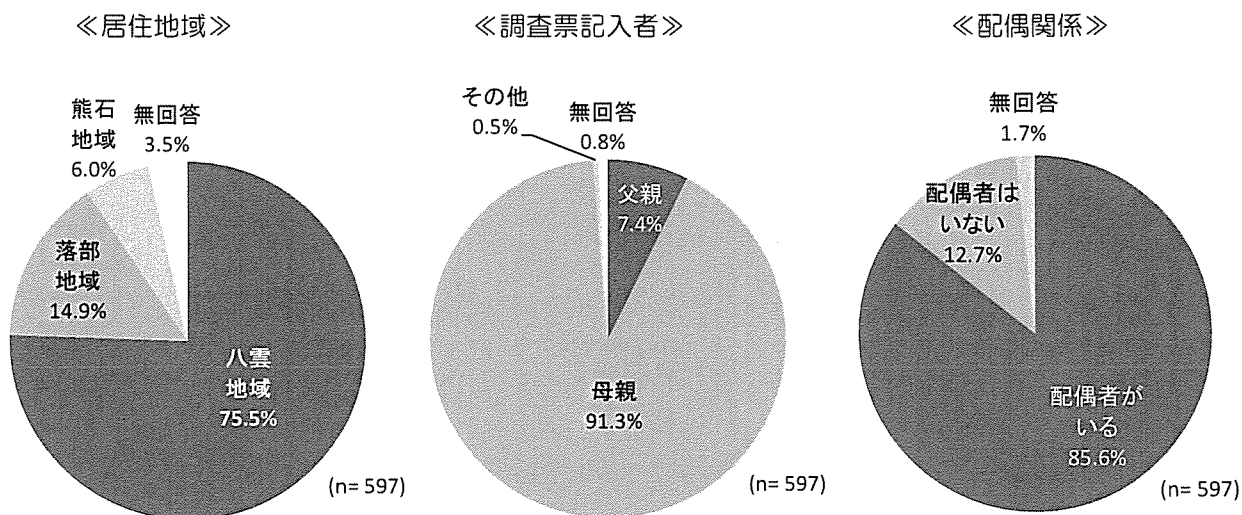
# III 小学生の集計結果

## 1 お子さんご家族の状況について

### (1) 回答者の属性

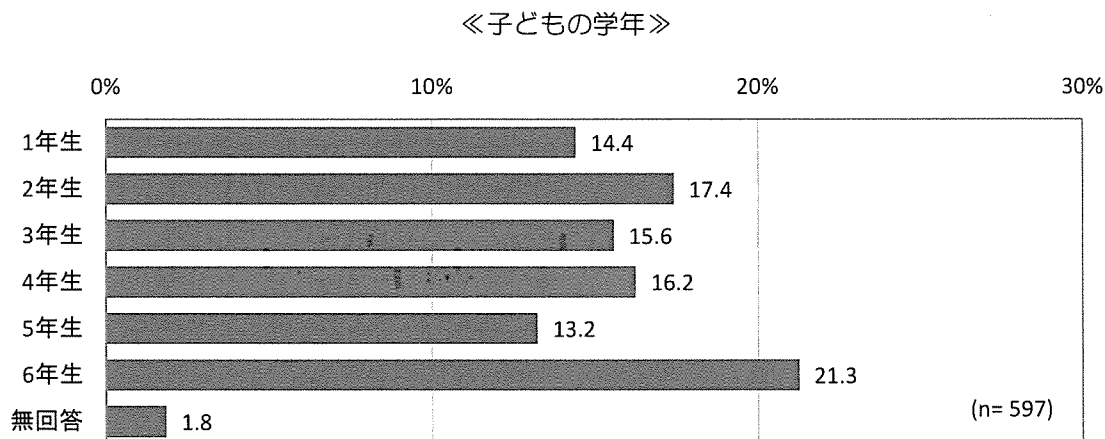
居住地域は「八雲地域」が75.5%を占め、「落部地域」は14.9%、「熊石地域」は6.0%となっています。

調査票記入者は母親が約9割を占めています。また、配偶関係をみると、「配偶者がいる」は85.6%、「配偶者がいない」が12.7%となっています。



### (2) 子どもの学年

子どもの学年は、「6年生」が21.3%で最も多く、次いで「2年生」(17.4%)、「4年生」(16.2%)と続いています。





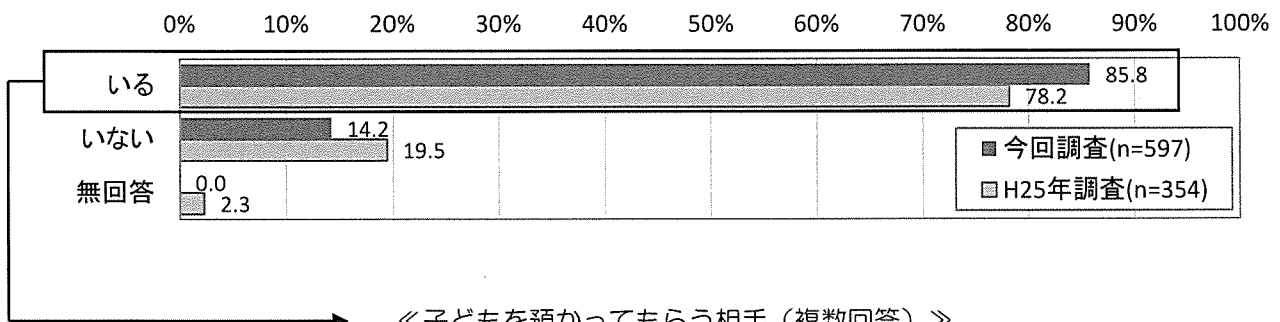
## 2 お子さんの育ちをめぐる環境について

### (1) 子どもを預かってもらえる親せきや友人・知人について

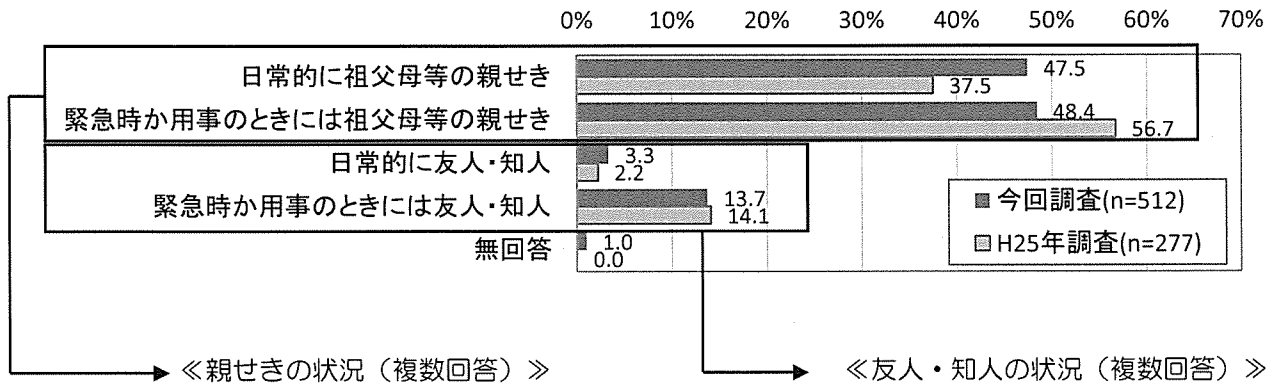
子どもを預かってもらえる親せきや友人・知人は、「いる」が85.8%で、「いない」は14.2%にとどまっている状況です。預かってもらえる先は、「日常的に祖父母等の親せき」「緊急時か用事のときには祖父母等の親せき」がそれぞれ5割弱となっています。

預けている先の状況は「安心して子どもをみてもらえる」が、親せき及び友人・知人ともに半数を超えています。友人・知人に預けている人は「友人・知人に負担をかけていることが心苦しい」も半数近くいる状況です。

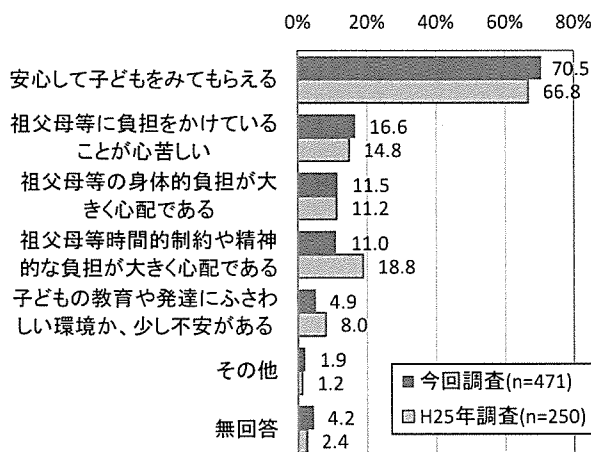
《子どもを預かってもらえる親せきや友人・知人の有無》



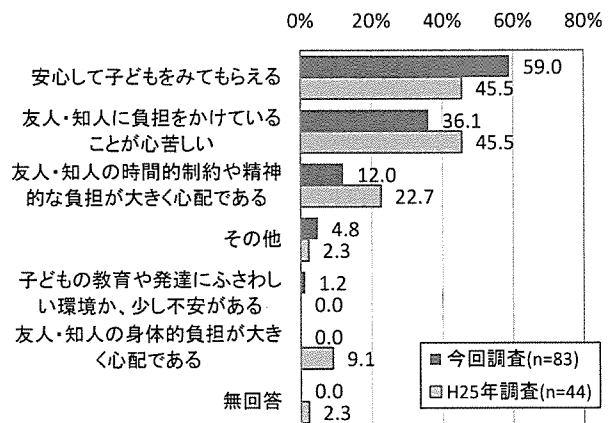
《子どもを預かってもらう相手（複数回答）》



《親せきの状況（複数回答）》



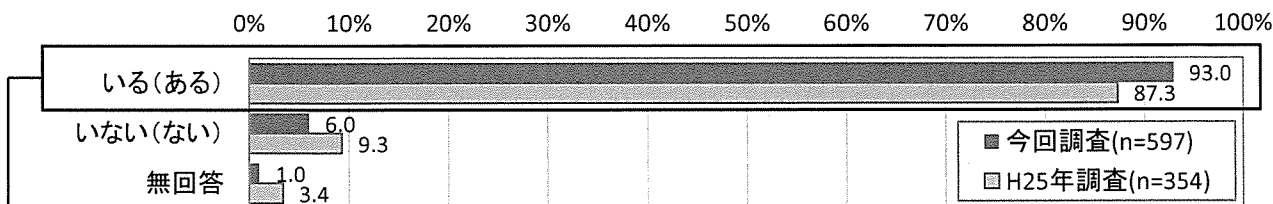
《友人・知人の状況（複数回答）》



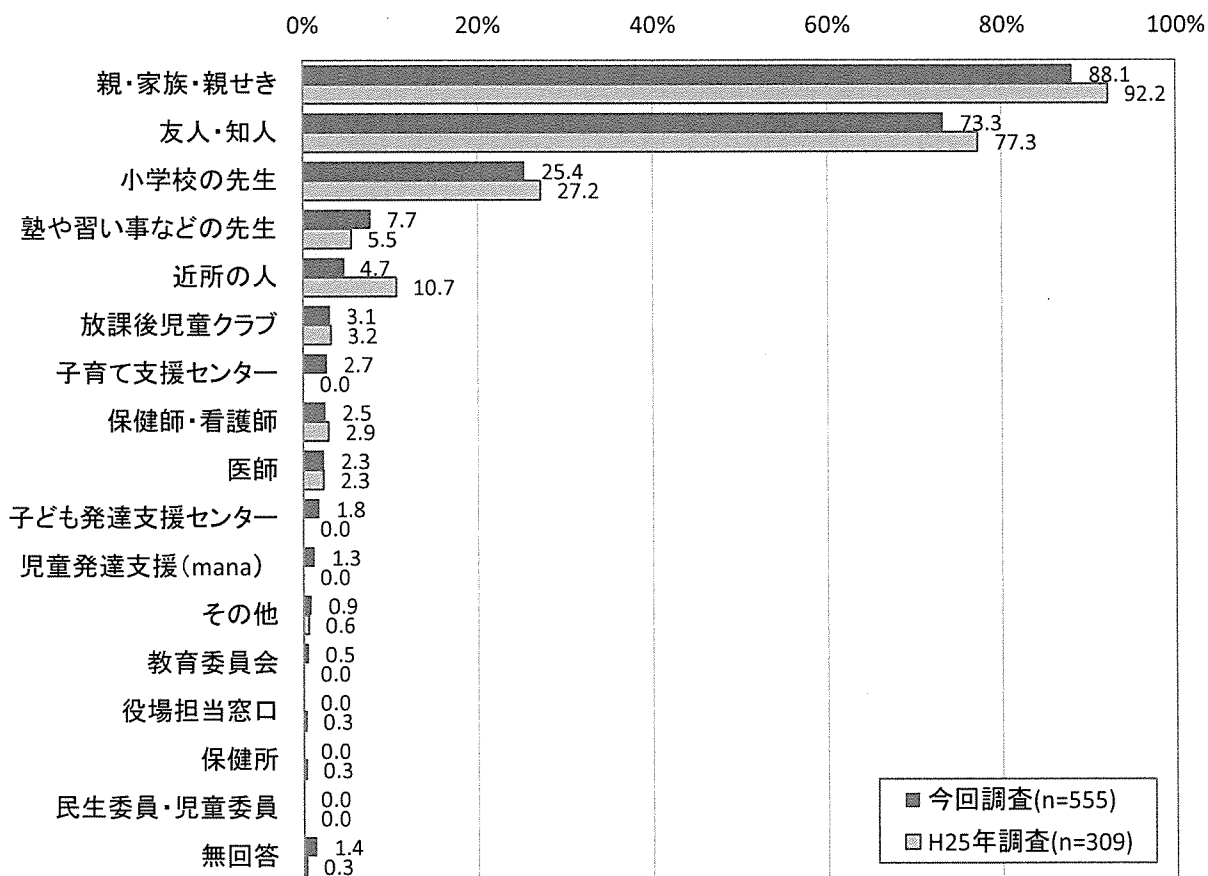
## (2) 子育てに関する相談先

子育てに関する相談先が「いる(ある)」は93.0%を占めており、相談先の中では、「親・家族・親せき」(88.1%)、「友人・知人」(73.3%)が多く、次いで「小学校の先生」(25.4%)が続いています。

《相談先の有無》



《相談先の種類(複数回答)》



※「児童発達支援センター」「児童発達支援(mana)」は、H25年調査では選択肢になかったため0.0%となっています

### 3 現在の放課後の過ごし方について

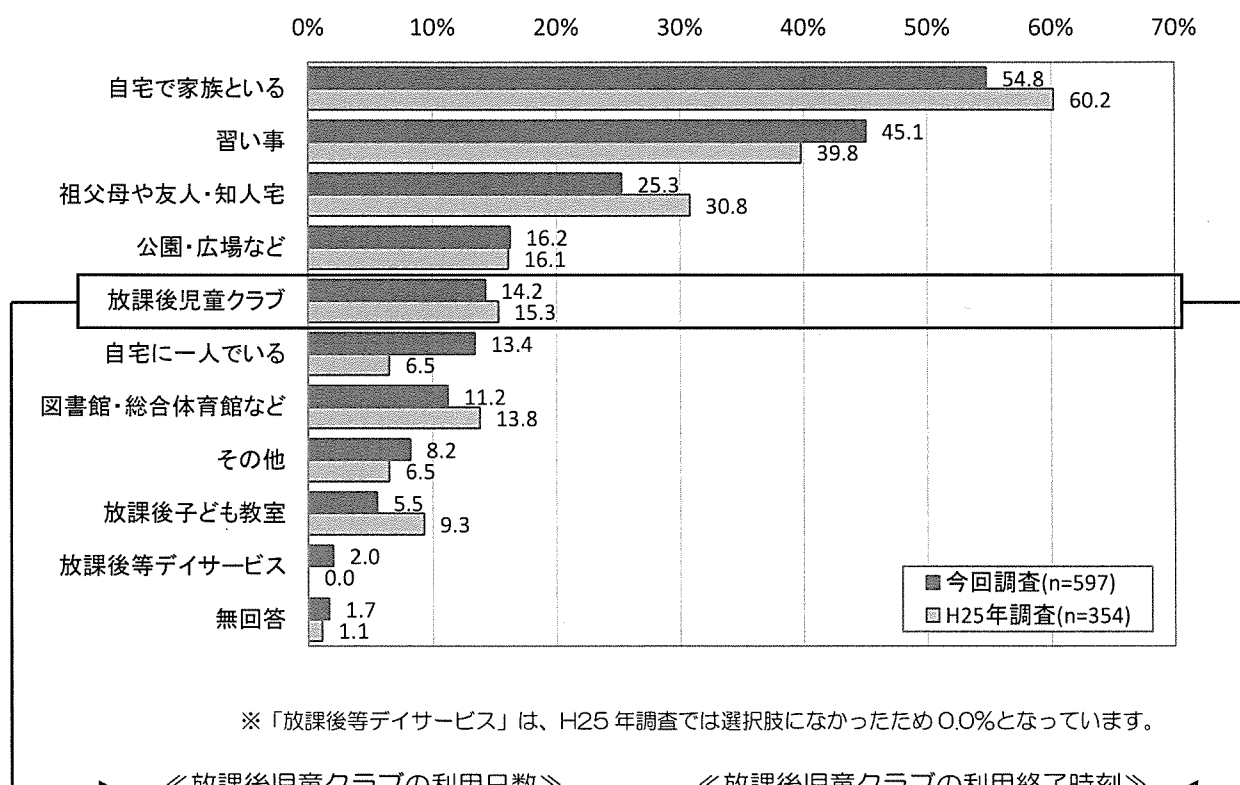
#### (1) 放課後に過ごしている場所

##### ①全体

現在、子どもが放課後に過ごしている場所は、「自宅で家族といる」が54.8%で最も多く、次いで「習い事」(45.1%)、「祖父母や友人・知人宅」(25.3%)と続いています。

「放課後児童クラブ」で過ごしている人は14.2%で、利用日数は「5日」が58.8%で多く、利用終了時刻は「17時台」「18時台」がともに43.5%となっています。

《放課後に過ごしている場所(複数回答)》



《放課後児童クラブの利用日数》

日数	n	%
1日	3	3.5
2日	5	5.9
3日	11	12.9
4日	10	11.8
5日	50	58.8
6日	3	3.5
7日	0	0.0
無回答	3	3.5
全体	85	100.0

《放課後児童クラブの利用終了時刻》

終了時刻	n	%
15時前	0	0.0
15時台	3	3.5
16時台	4	4.7
17時台	37	43.5
18時台	37	43.5
19時台	0	0.0
20時以降	0	0.0
全体	85	100.0

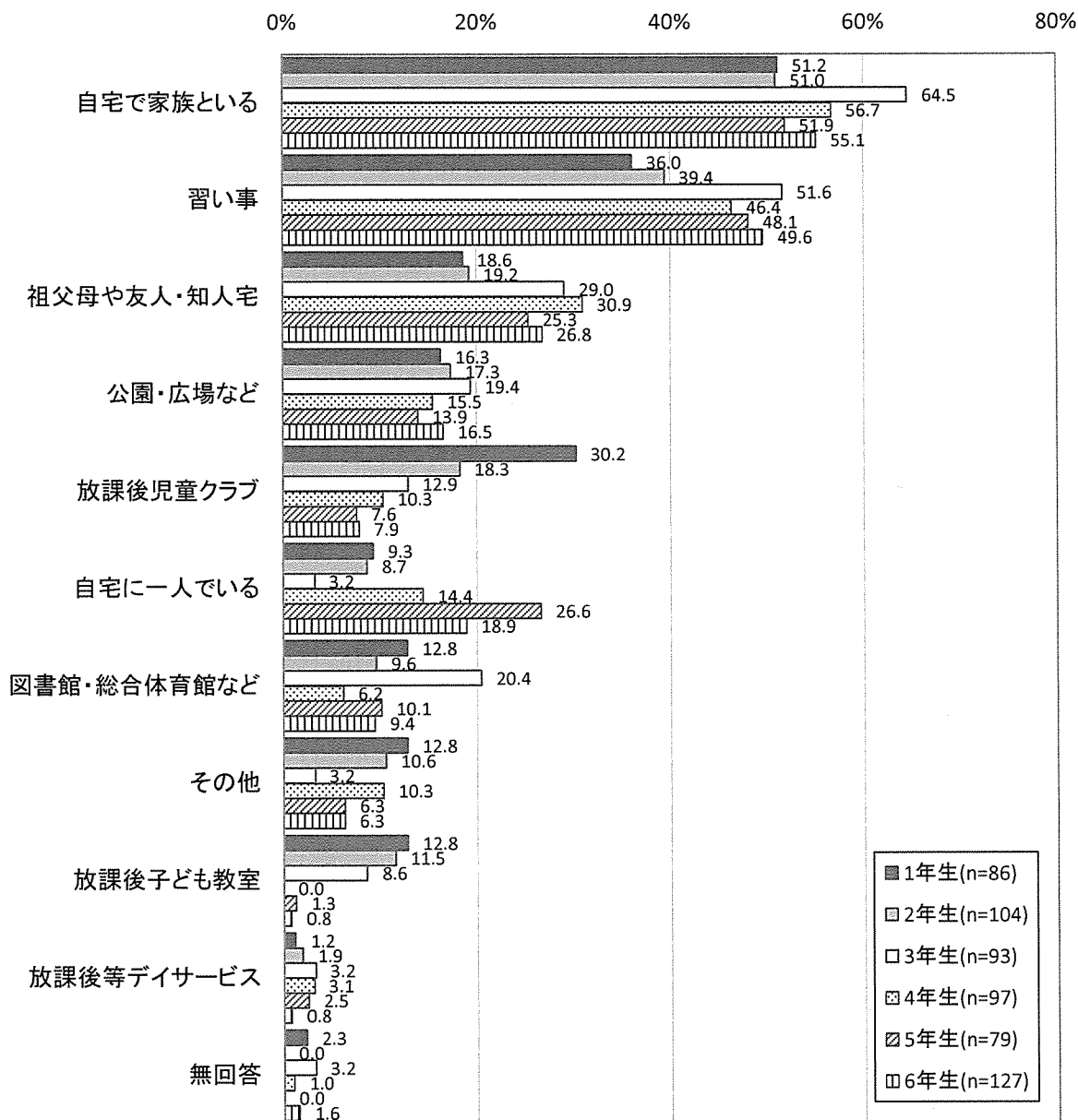
※網掛け部はそれぞれの中で回答者が一番多い項目

## ②学年別

放課後を過ごしている場所を学年別でも、「自宅で家族といる」はすべての学年で5割超となっており、次に多い「習い事」は学年が高くなるにつれておおむね増加しています。

「放課後児童クラブ」を利用している人の割合は、1年生の30.2%から学年が高くなるにつれておおむね減少し、6年生では7.9%となっています。

《放課後に過ごしている場所（複数回答）》

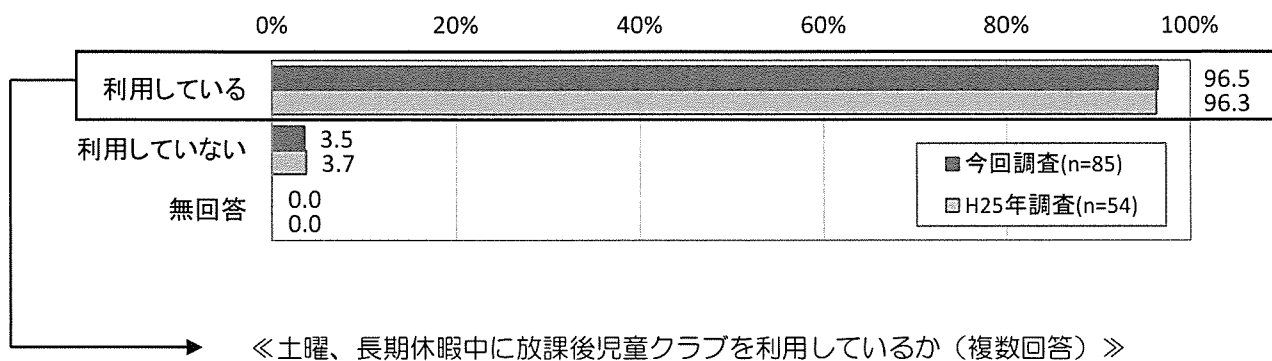


## (2) 土曜、長期休暇中の放課後児童クラブの利用状況

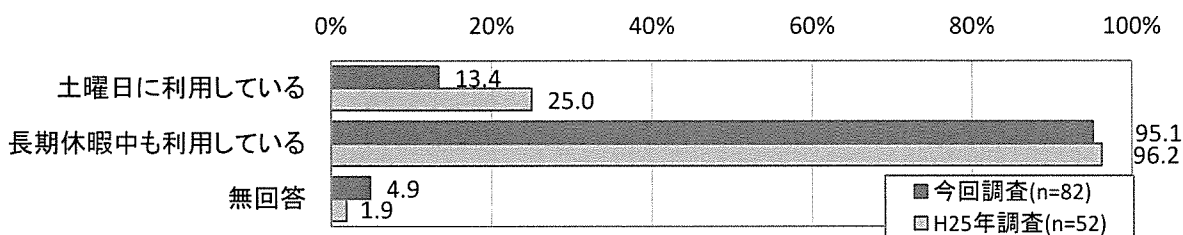
放課後児童クラブの利用を利用している人に、土曜、長期休暇中の利用状況をたずねたところ、「利用している」が96.5%を占め、特に「長期休暇中も利用している」が95.1%と非常に多くなっており、H25年調査とほぼ同じ結果となっています。

土曜、長期休暇中ともに利用開始時刻は「8時台」が多く、利用終了時刻は、土曜は「16時台」、長期休暇中は「18時台」「19時台」がそれぞれ多くなっています。

《土曜、長期休暇中に放課後児童クラブを利用しているか》



《土曜、長期休暇中に放課後児童クラブを利用しているか（複数回答）》



《利用開始時刻》

開始時刻	土曜日		長期休暇中	
	n	%	n	%
7時台	0	0.0	0	0.0
8時台	7	63.6	61	78.2
9時台	2	18.2	15	19.2
10時台	2	18.2	0	0.0
無回答	0	0.0	2	2.6
全体	11	100.0	78	100.0

《利用終了時刻》

終了時刻	土曜日		長期休暇中	
	n	%	n	%
12時台	1	9.1	0	0.0
13時台	0	0.0	1	1.3
14時台	2	18.2	0	0.0
15時台	3	27.3	2	2.6
16時台	5	45.5	4	5.1
17時台	0	0.0	35	44.9
18時台	0	0.0	34	43.6
19時台	0	0.0	0	0.0
無回答	0	0.0	2	2.6
全体	11	100.0	78	100.0

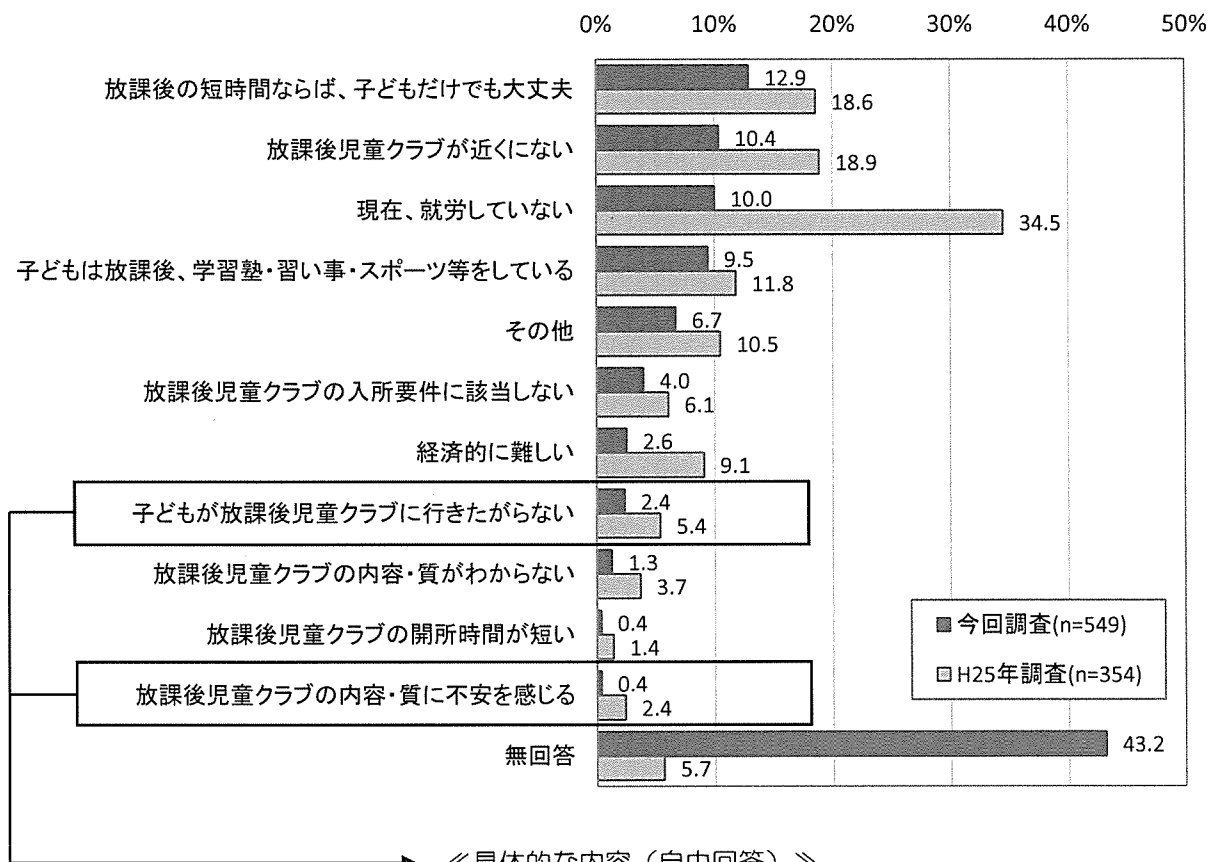
※網掛け部はそれぞれの中で回答者が一番多い項目

### (3) 放課後児童クラブを利用していない理由

放課後児童クラブを利用していない人にその理由をたずねたところ、「放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫」が12.9%で最も多く、次いで「放課後児童クラブが近くにない」(10.4%)、「現在就労していない」(10.0%)が続いています。

また、「子どもが放課後児童クラブに行きたがらない」「放課後児童クラブの内容・質に不安を感じる」と回答した人にその具体的な内容をたずねたところ、「本人が自由に過ごしたい」「友人と遊んでいる」などの意見がある一方、「障がいを持っているので、手厚い対応をしてもらえるところの方が望ましい」「嫌がらせがあり行けなくなってしまった」という回答もみられます。

《放課後児童クラブを利用していない理由》



《具体的な内容（自由回答）》

- ・家で自由にしたいそう。
- ・本能的に自由に過ごしたいからだと思う。
- ・家に一人である方が気が楽とのこと。
- ・同級生、上級生、下級生と遊具等で遊んでいます。
- ・友達と遊びたい。
- ・仲の良い友人が学童にいないため、行きたがらない。
- ・障がいを持っているので、手厚い対応をしてもらえるところの方が望ましい。
- ・落ち着きがないため、手厚い対応をしてもらえるところが望ましい。
- ・自営のため仕事をしながらみている。
- ・母親が休養中の為、家にいるから。
- ・理由は特にないようだが、行きたくないと言っている。
- ・プールは水泳教室。公園は、祖父が連れて行ってくれる。
- ・低学年の頃行ってましたが、嫌がらせがあり行けなくなってしまった。
- ・祖父母の家が楽しい。
- ・熊石地区には、子供が遊ぶところがありません。夏は公園にみんな集まりますが、冬は遊べないので可哀そうです。

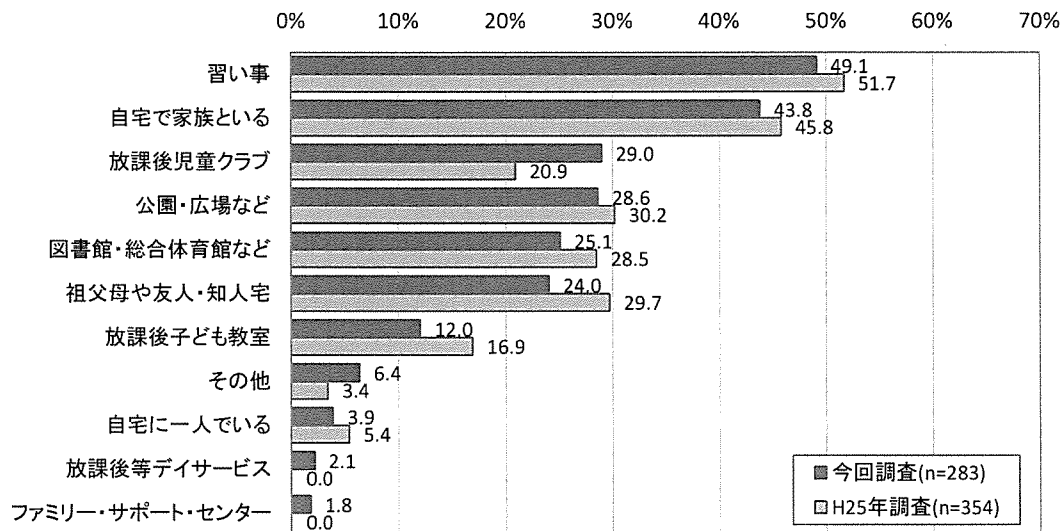
## 4 今後の放課後の過ごし方について

### (1) 放課後に過ごさせたい場所

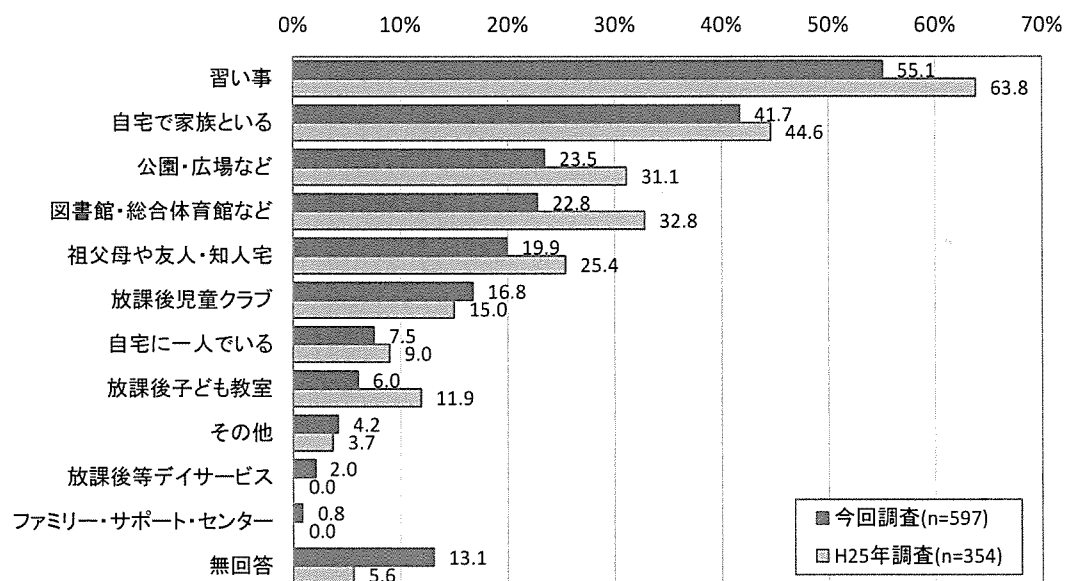
放課後に過ごさせたい場所をたずねたところ、小学校低学年の間は「習い事」（49.1%）、「自宅で家族といる」（43.8%）が上位回答となっています。

小学校高学年の間は、「習い事」が55.1%で最も多く、次いで「自宅で家族といる」（41.7%）、「公園・広場など」（23.5%）と続いています。

《低学年の間、放課後に過ごさせたい場所（複数回答）》



《高学年の間、放課後に過ごさせたい場所（複数回答）》

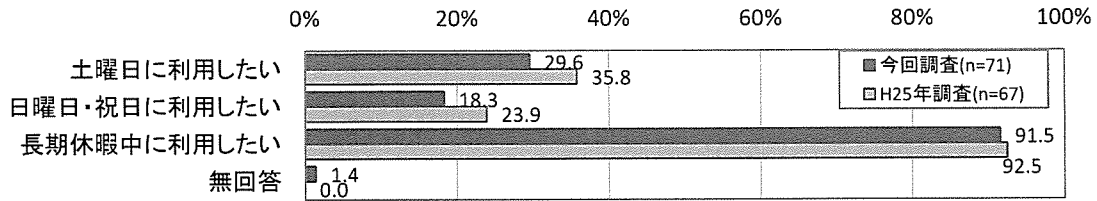


※「放課後等デイサービス」は、H25年調査では選択肢になかったため0.0%となっています。

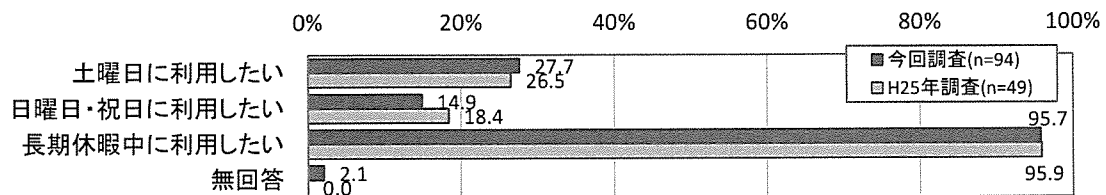
## (2) 土曜、日曜・祝日等の放課後児童クラブの利用意向

放課後児童クラブの利用を希望している人に、土曜、日曜・祝日等の利用意向をたずねたところ、低学年の間及び高学年の間ともに「長期休暇中に利用したい」が9割を超えている状況です。

《低学年の間、土曜、日曜・祝日等に放課後児童クラブの利用を希望するか（複数回答）》



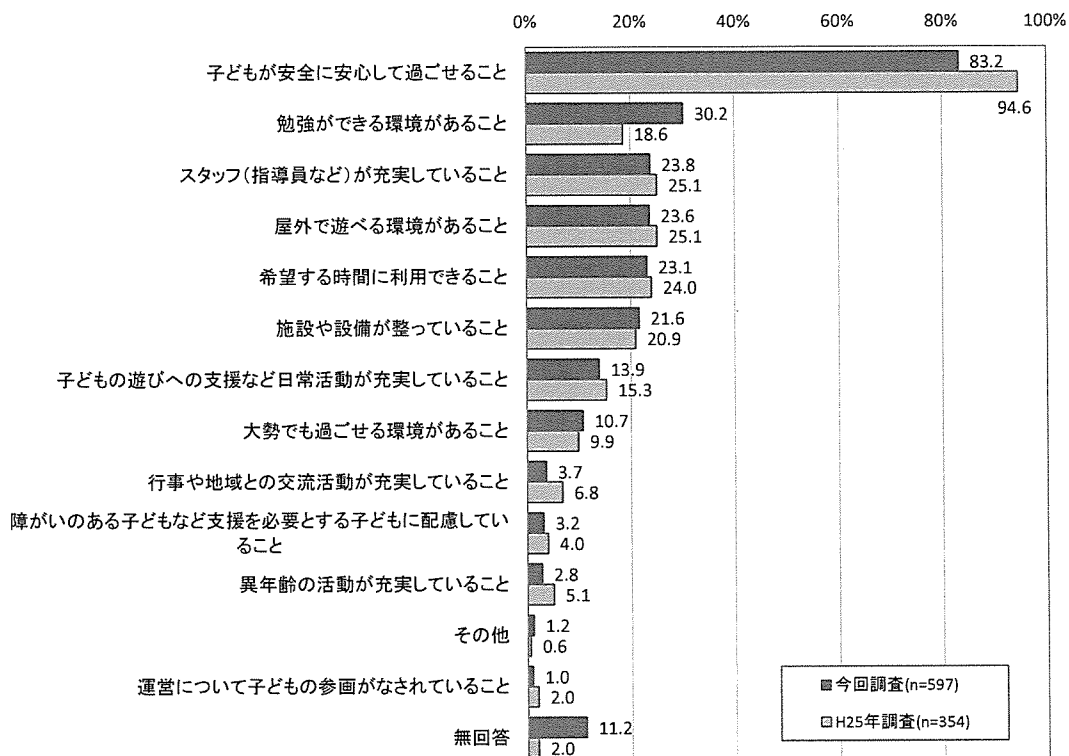
《高学年の間、土曜、日曜・祝日等に放課後児童クラブの利用を希望するか（複数回答）》



## (3) 放課後を過ごす場所として重視する条件

放課後を過ごす場所として重視する条件は、「子どもが安全に安心して過ごせること」が83.2%を占めており、H25年調査と比べて11.4ポイント少なくなっているものの、最も重視する条件として変わりはない状況です。

《放課後を過ごす場所として重視する点（複数回答）》





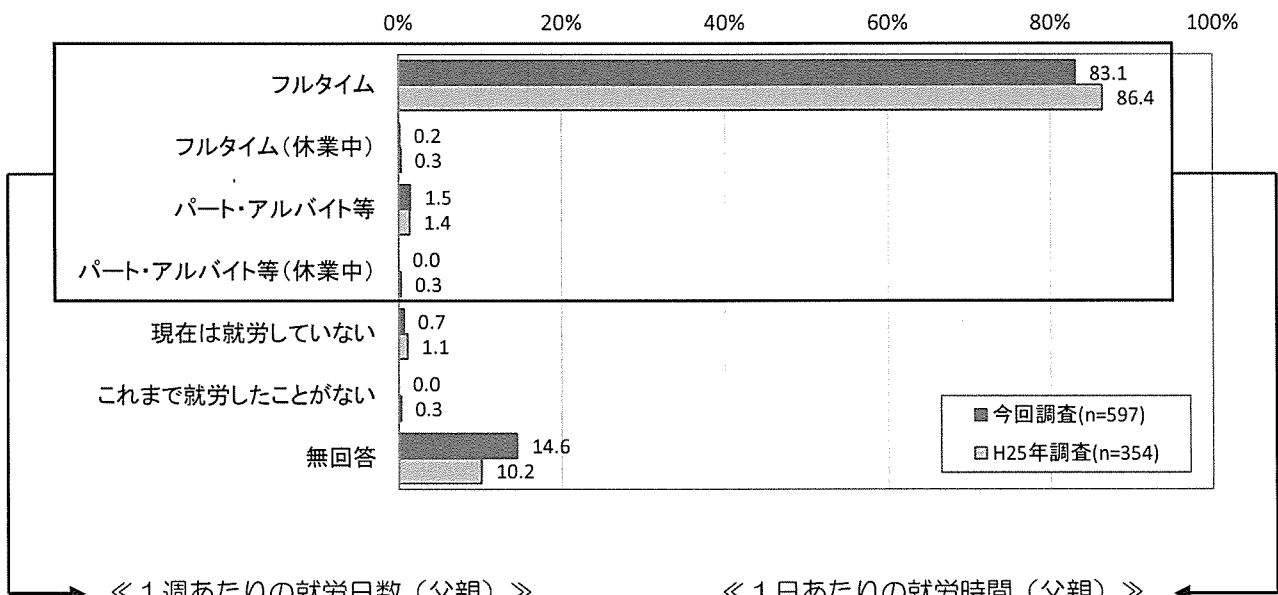
## 5 保護者の就労状況について

### (1) 父親の現在の就労状況

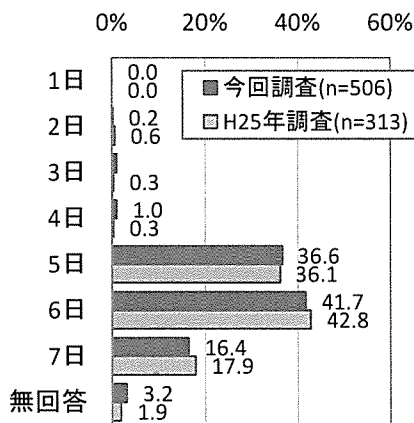
父親の現在の就労状況は、「フルタイム」が83.1%を占めており、H25年調査とほぼ同じ結果となっています。

パート・アルバイト等を含めた週あたりの就労日数は、「5日」(36.6%)よりも「6日」(41.7%)の方が多くなっています。また、1日あたりの就労時間は「8～9時間未満」(34.0%)に次いで「12時間超」が19.4%となっています。H25年調査と比較すると、今回調査は就労時間が10～12時間未満の人が減少し、「8～9時間未満」及び「12時間超」の人は増加しているため、全体的な傾向として就労時間の2極化が進んでいることが伺えます。

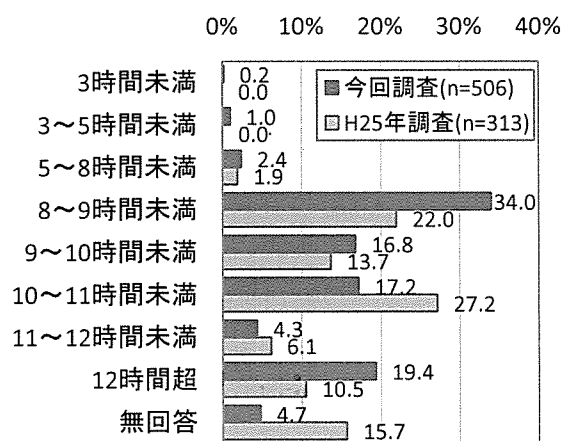
《現在の就労状況（父親）》



《1週あたりの就労日数（父親）》



《1日あたりの就労時間（父親）》

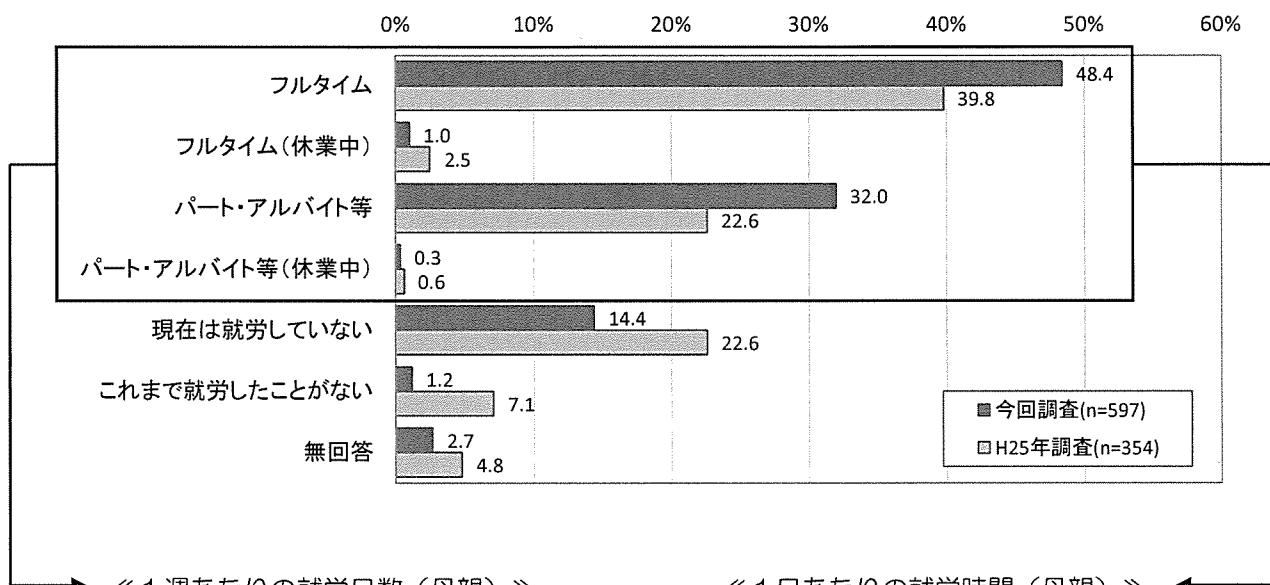


## (2) 母親の現在の就労状況

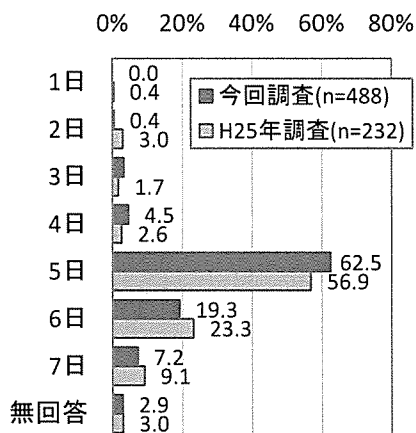
母親の現在の就労状況は、「フルタイム」が48.4%で最も多く、次いで「パート・アルバイト等」が32.0%で続いています。H25年調査と比べると、就労している母親の割合が高くなり、未就労の母親の割合は低くなっています。

パート・アルバイト等を含めた週あたりの就労日数は「5日」が62.5で最も多く、1日あたりの就労時間は「5～8時間未満」(36.1%)に次いで「8～9時間未満」も32.4%で続いており、パート・アルバイト等の人の中でもフルタイムに近い就労状況の人が多く考えられます。

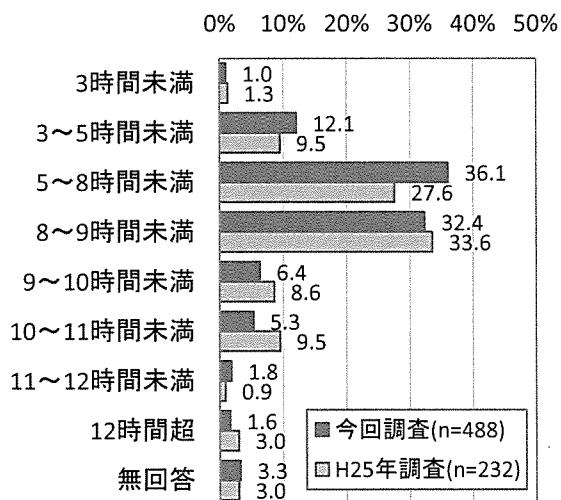
《現在の就労状況（母親）》



《1週あたりの就労日数（母親）》



《1日あたりの就労時間（母親）》

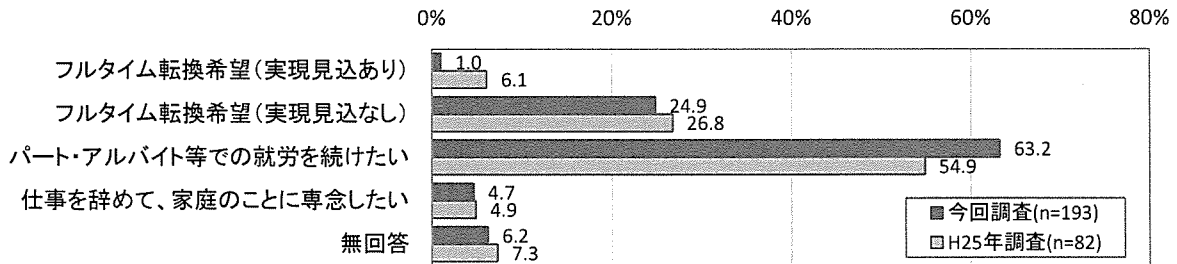


### (3) 母親の今後の就労意向

#### ①パート・アルバイト等で就労している母親の就労意向

パート・アルバイト等で就労している母親にフルタイムへの転換意向をたずねたところ、「パート・アルバイト等での就労を続けたい」が63.2%を占め、フルタイムへの転換を希望する人は、実現の見込のありとなしの合計で25.9%となっています。

《今後の就労意向（パート・アルバイト等で就労している母親）》

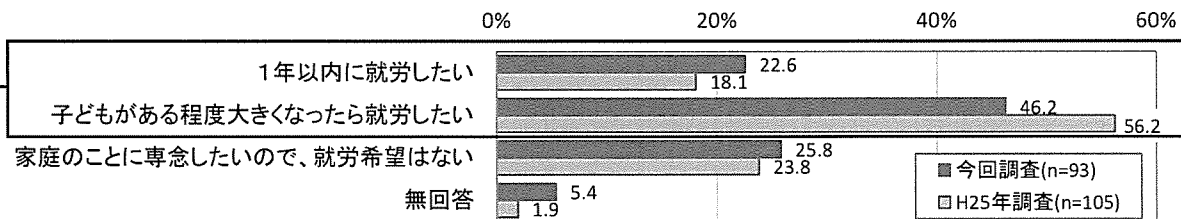


#### ②未就労の母親の就労意向

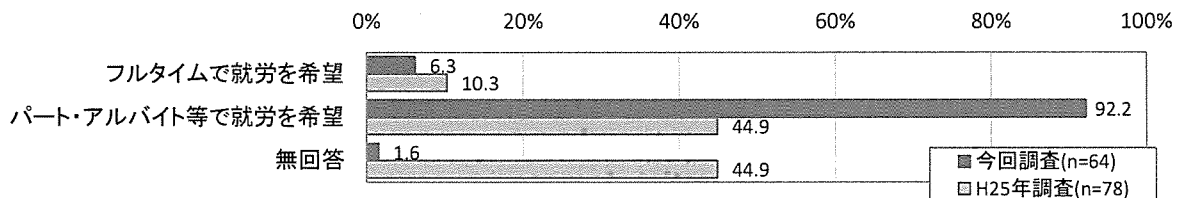
未就労の母親に今後の就労意向をたずねたところ、「子どもがある程度大きくなったら就労したい」が46.2%で最も多く、「1年以内に就労したい」は22.6%、「家庭のことに専念したいので、就労希望はない」が25.8%となっています。

就労意向のある人が希望する就労形態は、「パート・アルバイト」が92.2%を占めています。

《今後の就労意向（未就労の母親）》



《希望する就労形態（未就労の母親）》

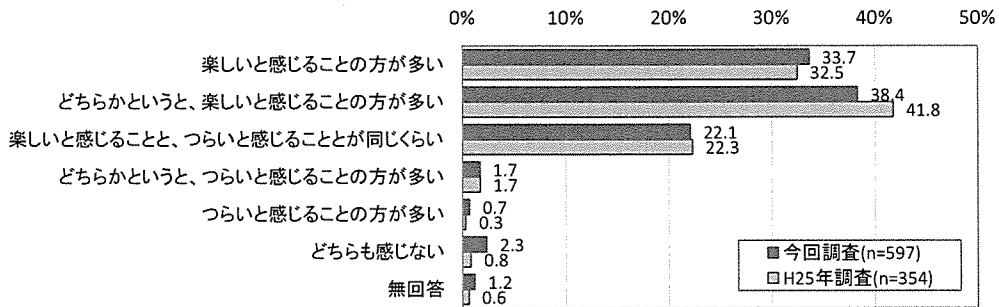


## 6 子育て全般について

### (1) 子育て・教育で感じること

子育て・教育で感じることは、「楽しいと感じることの方が多い」(33.7%)、「どちらかという  
と、楽しいと感じることの方が多い」(38.4%)が上位回答で、合計72.1%が楽しいと感じている状  
況にあり、H25年調査とおおむね傾向は同じ結果となっています。

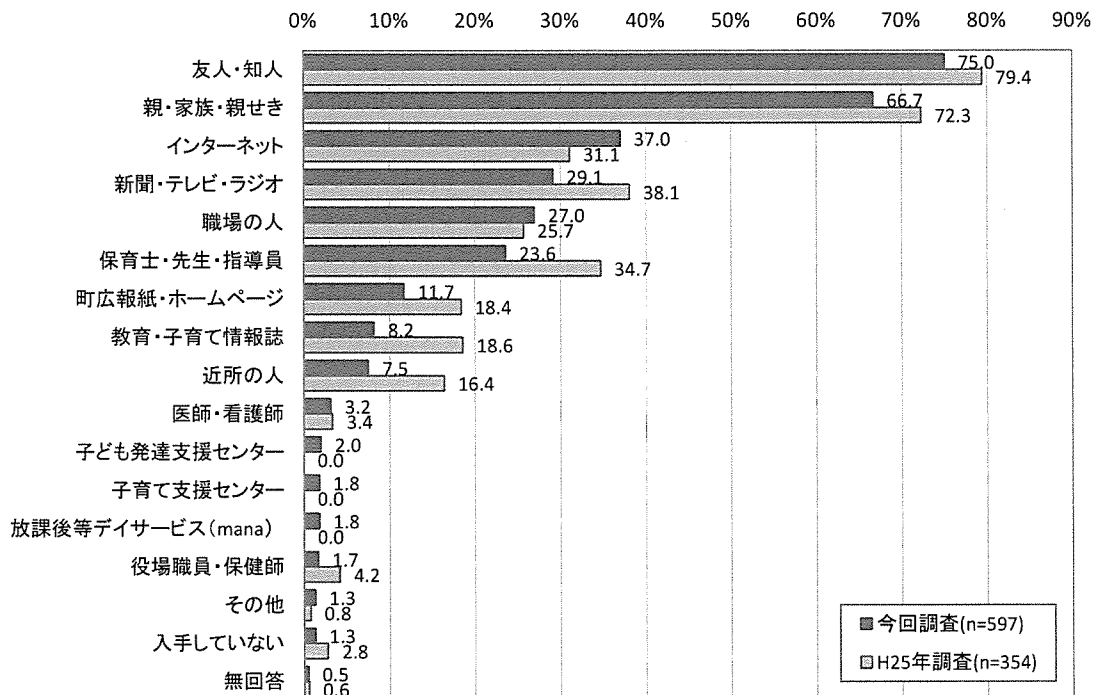
《子育て・教育で感じること》



### (2) 子育て・教育に関する情報の入手先

子育て・教育に関する情報の入手先は、「友人・知人」(75.0%)、「親・家族・親せき」(66.7%)  
が上位回答となっており、次いで「インターネット」(37.0%)、「新聞・テレビ・ラジオ」(29.1%)  
が続いています。H25年調査と比較すると、今回調査は「保育士・先生・指導員」及び「教育・子育  
て情報誌」が10ポイント以上減少しています。

《子育て・教育に関する情報の入手先(複数回答)》



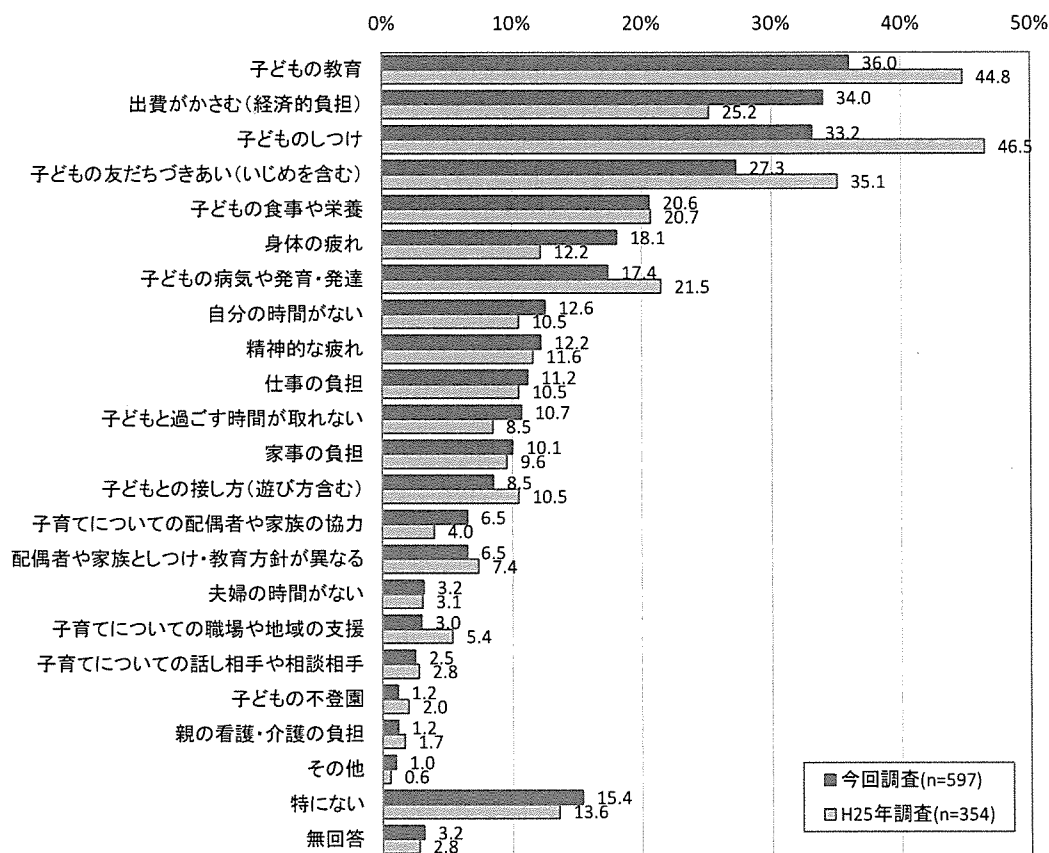
※「子育て支援センター」「児童発達支援センター」「児童発達支援(mana)」は、H25年調査では選択回数になかったため0.0%となっています。

### (3) 子育て・教育に関する悩み

子育て・教育に関する悩みは、「子どもの教育」が36.0%で最も多く、次いで「出費がかさむ（経済的負担）」（34.0%）、「子どものしつけ」（33.2%）が続いています。

H25年調査と比較すると、今回調査は「出費がかさむ（経済的負担）」が8.8ポイント増加し、「子どものしつけ」が13.3ポイント減少しています。

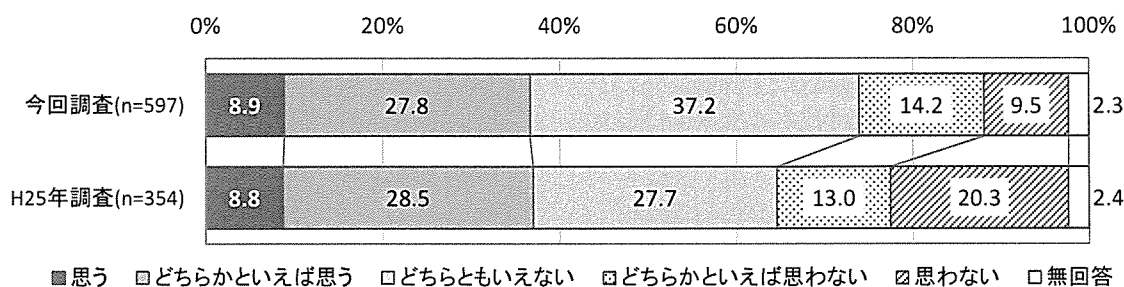
《子育て・教育に関する悩み（複数回答）》



### (4) 八雲町の子育てのしやすさ

八雲町の子育て・教育のしやすさは、「思う」（8.9%）、「どちらかといえば思う」（27.8%）の合計は36.7%でH25年調査とほぼ同じです。また、「どちらかといえば思わない」（14.2%）、「思わない」（9.5%）の合計は23.7%でH25年調査の33.3を下回っている状況です。

《八雲町は子育て・教育をしやすい町だと思うか》

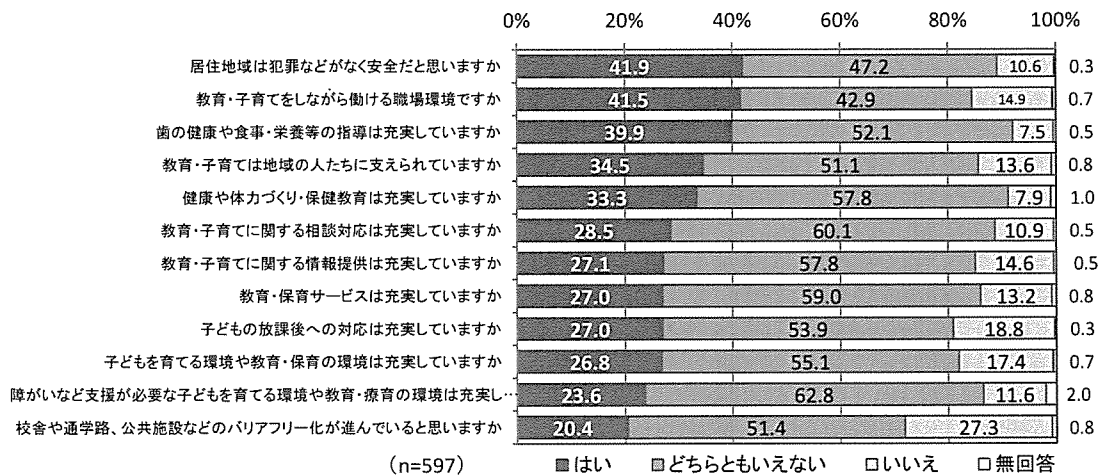


## (5) 子育て・教育の施策評価

子育て・教育の施策に関して、評価が高い施策（「はい」が多い施策）は、「居住地域は犯罪などがなく安全だと思いますか」（41.9%）、「教育・子育てをしながら働ける職場環境ですか」（41.5%）となっています。

一方、評価が低い施策（「いいえ」が多い施策）は、「校舎や通学路、公共施設などのバリアフリー化が進んでいると思いますか」（20.4%）、「障がいなど支援が必要な子どもを育てる環境や教育・療育の環境は充実していますか」（23.6%）となっています。

《子育て・教育の施策評価》



## (6) 現在必要とされている支援

保護者が現在必要としている支援は、「学校費用の軽減」（36.9%）が最も多く、次いで「医療や健康にかかわるサポート」（35.7%）、「放課後等の学習支援」（32.8%）、「子どもの居場所づくり」（29.8%）が上位回答となっています。

《現在必要とされている支援（複数回答）》

